

文教常任委員会資料

令和8年9月9日

(2026年)

教育委員会事務局学校教育課

令和8年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の結果について

標記の件について、次のとおり報告します。

令和8年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の結果について

1 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の目的

- (1) 学習活動の実現状況及び学習環境や家庭生活の状況等の有用な情報を客観的データに基づき分析・考察することにより、個別最適な学びと協働的な学びを推進するための教員の指導力向上と授業改善に役立てる。
- (2) 1人1台端末を用いたC B T調査《I R T（項目反応理論）》により、データ集約の効率化や指導の早期化を目指すとともに、平均点との比較ではなく、児童生徒が自身の「学力の伸び」と「非認知能力の変容」を継続的に把握し、実感することで学ぶ意欲の向上を図る。

2 概要

- (1) 実施日時： 小学校 令和8年5月18日（月）～5月22日（金）
中学校 令和8年5月25日（月）～5月29日（金）
- (2) 実施対象学年
ア 小学校 （4年生・5年生・6年生）
イ 中学校 （1年生・2年生・3年生）
- (3) 問題内容及び問題数
ア 国語、算数・数学
英語（中学2年生・3年生）
イ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

3 結果の活用

- (1) 各学校においては、調査結果から「学力の伸び」と「非認知能力の変容」を分析・考察するとともに、継続的に把握し、児童生徒一人一人への指導支援の改善に向けて計画的に取り組む。
- (2) 城陽市教育委員会においては、調査結果を踏まえ、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、市内の教育及び教育施策の改善に向けた取組を推進する。

4 結果の概要

小学校は、国語の市の平均正答率は4年生と6年生は府の平均と同程度、5年生は府平均を1.2ポイント下回り、特に「読むこと」に課題が見られた。算数は4年生と6年生が府の平均を上回り、5年生は府の平均と同程度だった。

中学校は、国語の市の平均正答率は1年生と2年生は府の平均を下回り、3年生は上回った。数学は1年生と3年生は府の平均を上回り、2年生は下回った。英語は、2年生は府の平均を下回り、3年生は上回った。

小学校と中学校合わせて14の科目試験のうち6科目が府の平均を上回る結果となった。

質問調査の結果として、市内全体として家庭で学習する習慣が不十分な児童生徒の割合が昨年度と同様に高い。予測困難な時代に必要とされる「学び続ける力」を育成するために小・中学校と家庭で連携を強める必要がある。

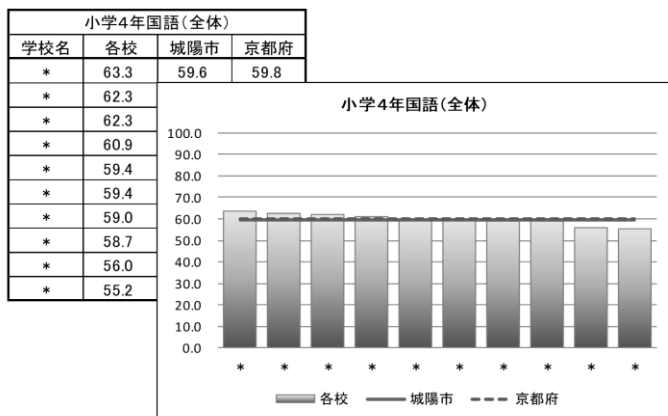
5 各教科の結果

(1) 国語／小学4年

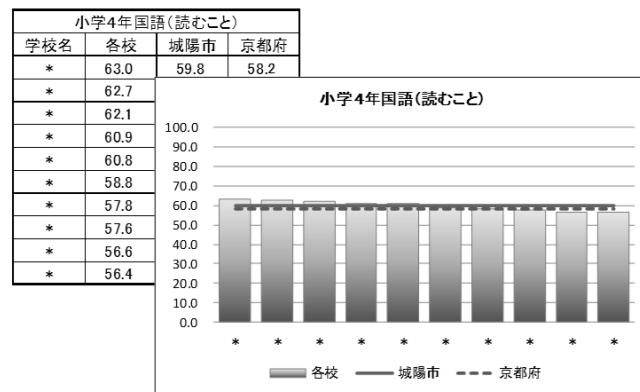
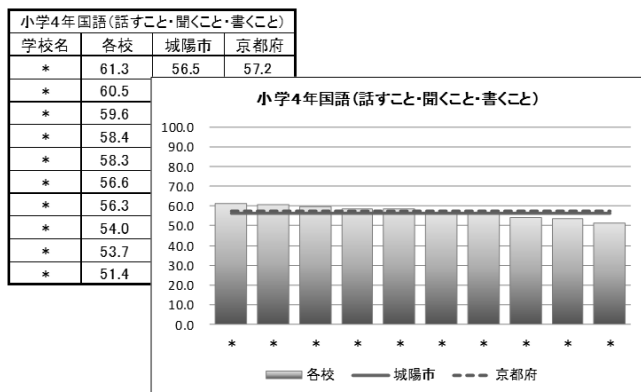
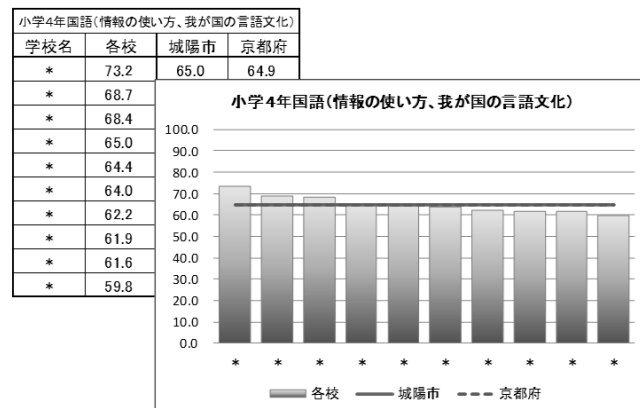
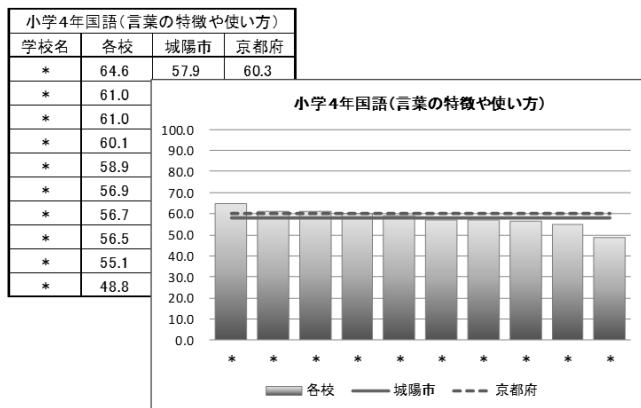
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.2ポイント下回りました。「言葉の特徴や使い方」の領域では府平均比が△2.4ポイントと課題が見られます。「言葉を正しく使う力」を伸ばすためには様々な文章に触れる機会、話し言葉と書き言葉を行き来する機会の確保が必要です。語彙の充実を図り、文脈による言葉の使い分けへの理解を深める手立てを講じる必要があります。
- ・高学年の学習に向けて、府平均比が△5ポイント以上差が付いた領域は重点的に習熟を図る必要があります。4年生段階での、「言葉の知識」「筋道を立てて書く力」「聞き手に分かりやすく話す力」をバランス良く育む学習活動の充実が求められます。

<結果の状況>

【全体の結果】



【領域別の結果】



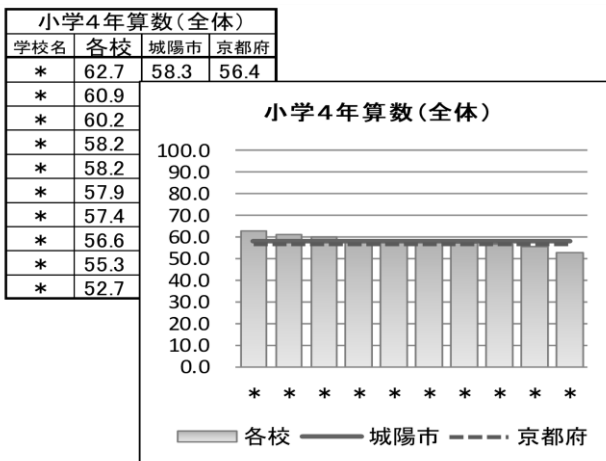
(2) 算数／小学4年

・「全体」では、京都府の平均と比較して、1.9ポイント上回る結果となりました。また、全ての領域に関して京都府の平均を上回りました。特に、基礎技能である「数と計算」の領域では府の平均点を2.6ポイント上回っていることから、基礎基本の定着はできていると考えられます。今後、小数や分数などを用いた複雑な計算を正確にできる力が求められますので、引き続き子どもの数量感覚や計算力を向上させる取組が必要です。

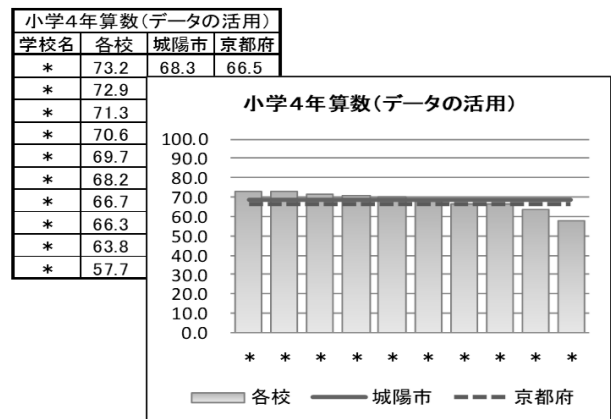
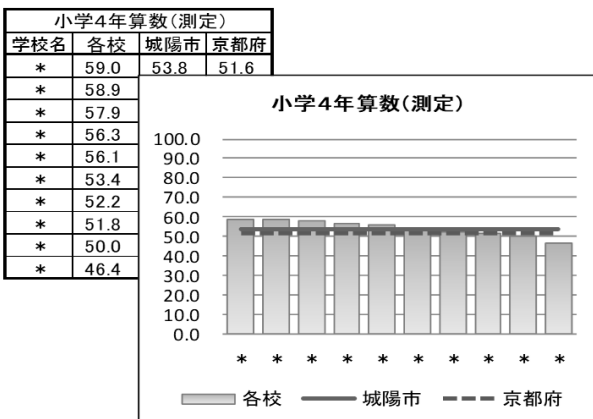
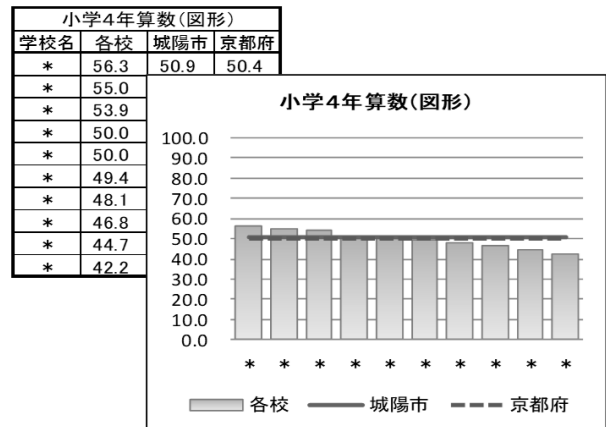
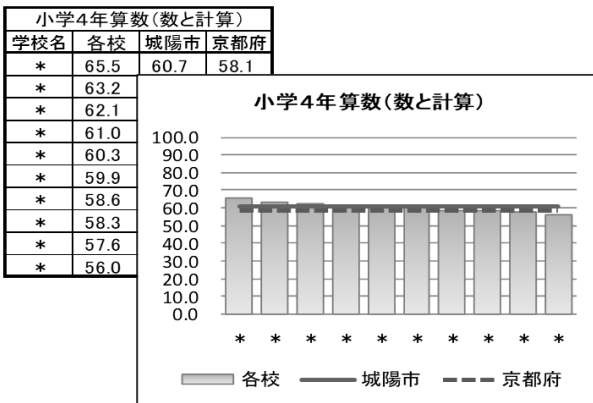
・「データの活用」で府平均△8.8ポイントと課題がある学校には、物事の仕組みやつながり、定義について理解を深めるための言語活動を充実させる工夫が求められます。

<結果の状況>

【全体の結果】



【領域別の結果】

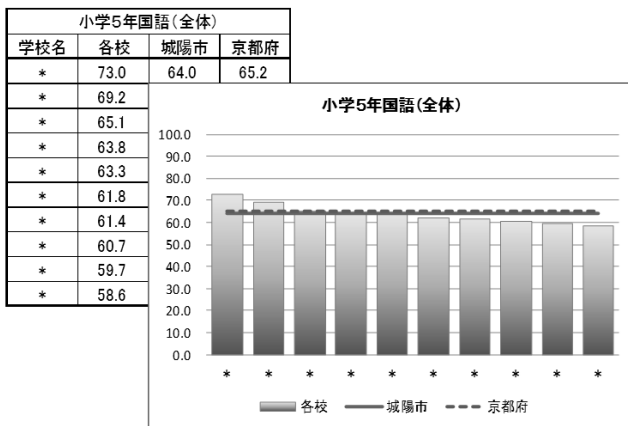


(3) 国語／小学5年

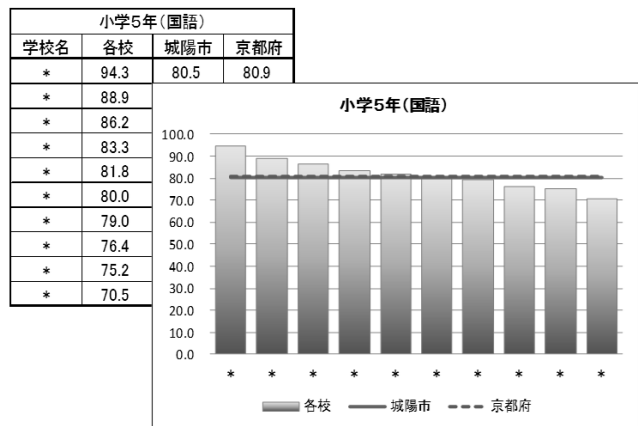
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、1.2ポイント下回りました。昨年度4年生時は府平均比△1.4ポイントでしたので、0.2ポイントの向上がありますが、まだ課題が残る現状です。
- ・「領域別の結果」においては、「話すこと・聞くこと・書くこと」と「読むこと」に課題が見られます。得た知識を活用するこの2領域の力を伸ばすためには、文章や会話の要点をおさえる習慣づけが必要です。言語活動を充実させると共に、学んだことや考えたことを自分の言葉で整理する活動を反復することが求められます。

<結果の状況>

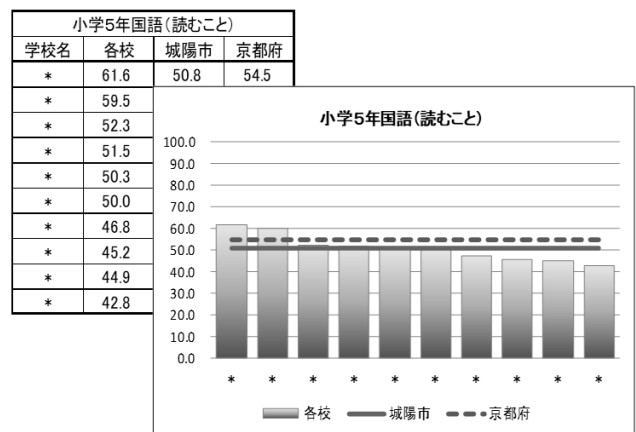
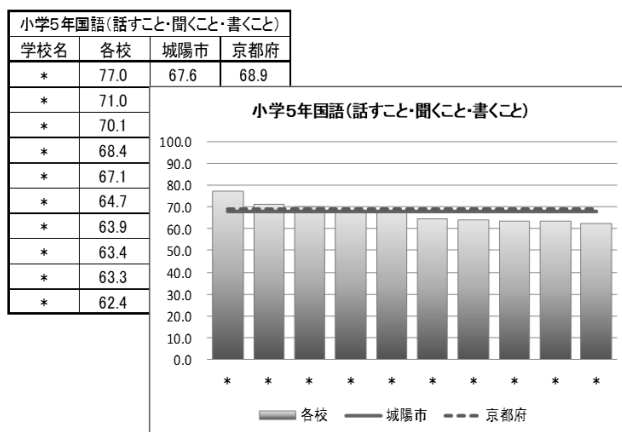
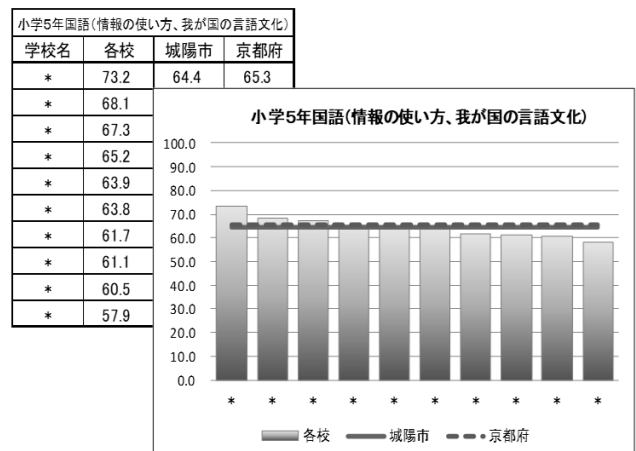
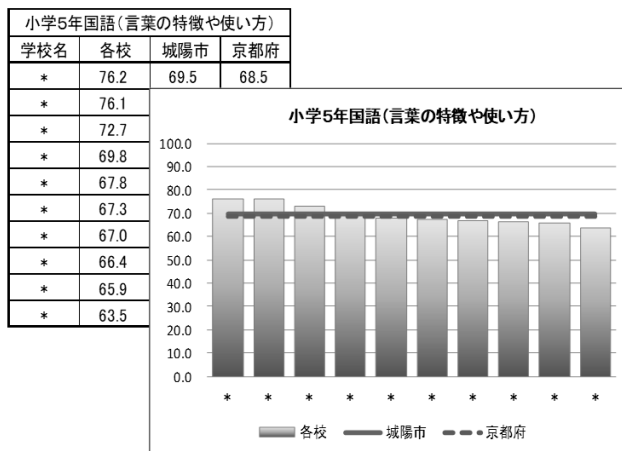
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】



【領域別の結果】

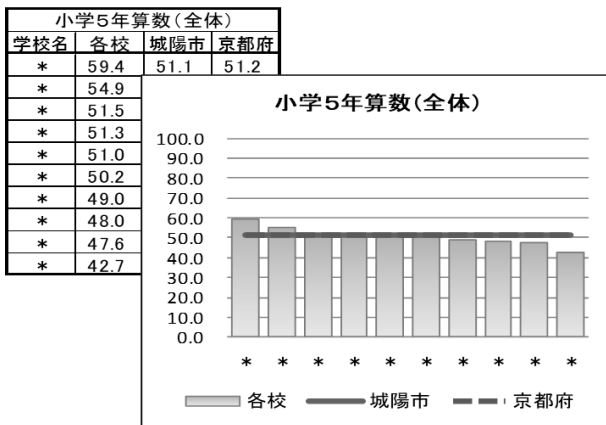


(4) 算数／小学5年

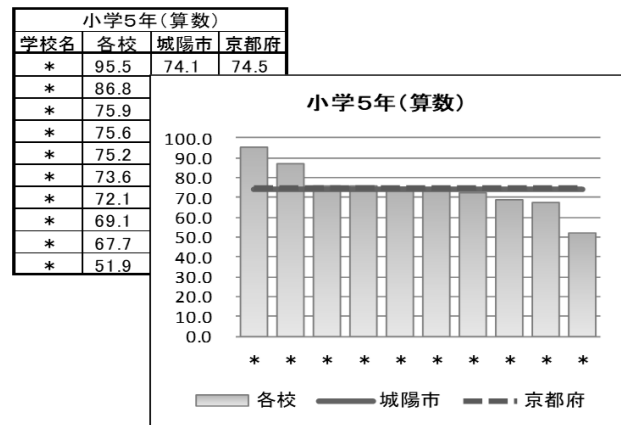
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.1ポイント下回りましたが、ほぼ同程度です。
- ・「全体」で正答率が低い学校は「図形」と「変化と関係／測定」の領域に課題がありました。それぞれの図形の定義と性質などについて理解するための言語活動を充実させることが必要です。また、学習内容を実生活と結びつけることで変化する数量への関心を高めながら、グラフの作図や測定など、実際に体験する活動を充実させる授業の展開が求められます。

<結果の状況>

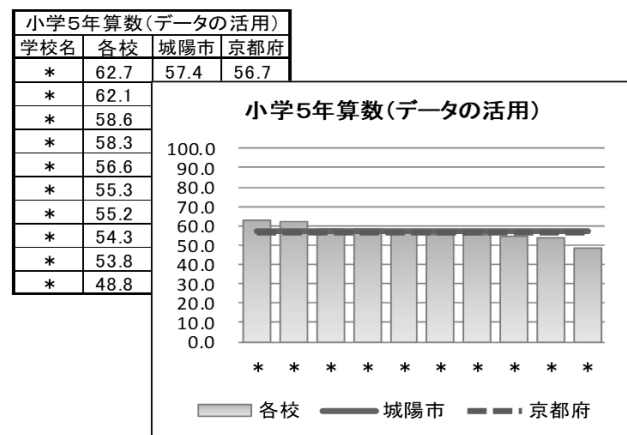
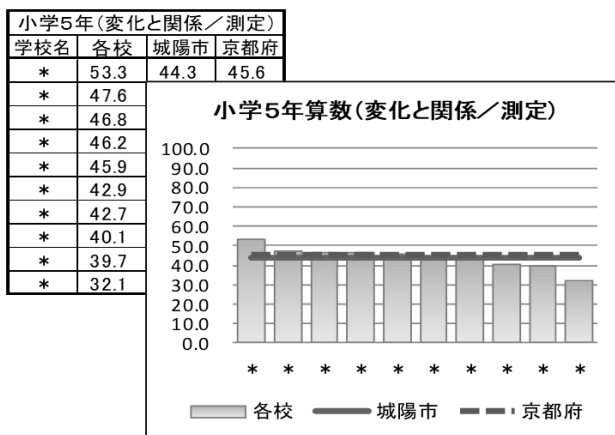
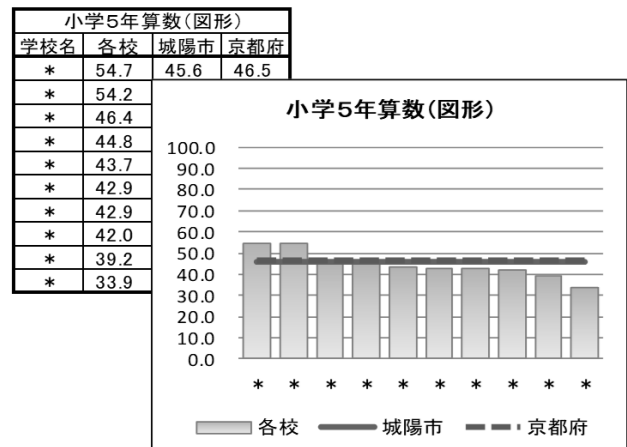
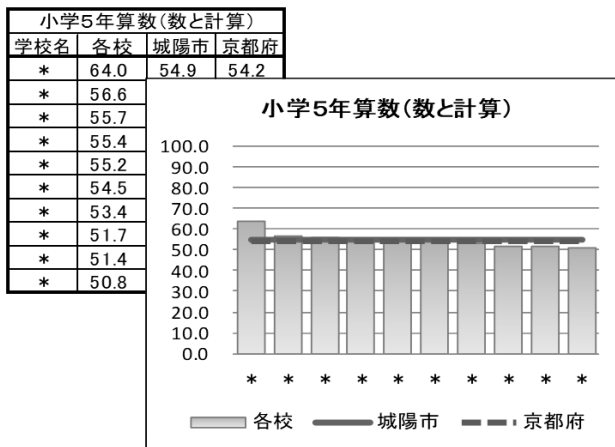
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】



【領域別の結果】

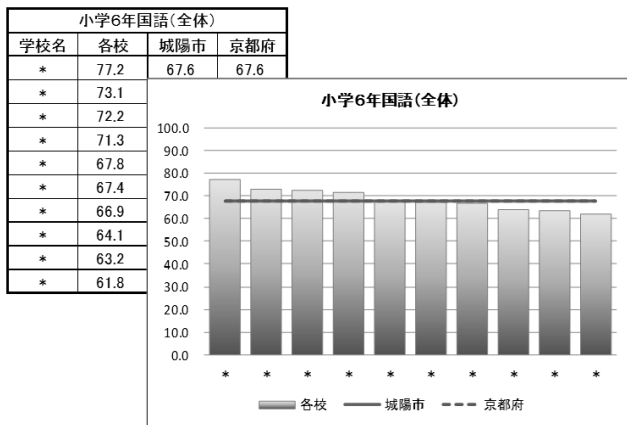


(5) 国語／小学6年

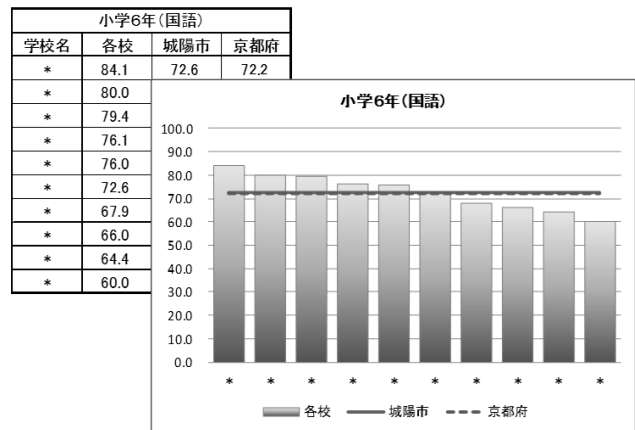
- ・「全体」では、京都府の平均と同等でした。昨年度5年生時は△0.2ポイントだったことから、市全体として6年生の国語の学力はやや向上傾向にあります。
- ・「領域別の結果」においては、「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方、我が国の言語文化」「読むこと」の3領域で府の平均を上回っています。今後は、得た知識を活用する活動の充実が求められます。国語以外の教科でも、学習したことをまとめる活動やプレゼンテーションなどの活動で要点を意識する習慣づけが必要です。

<結果の状況>

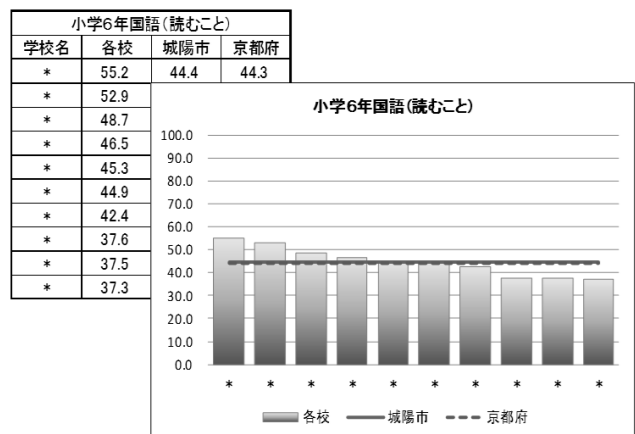
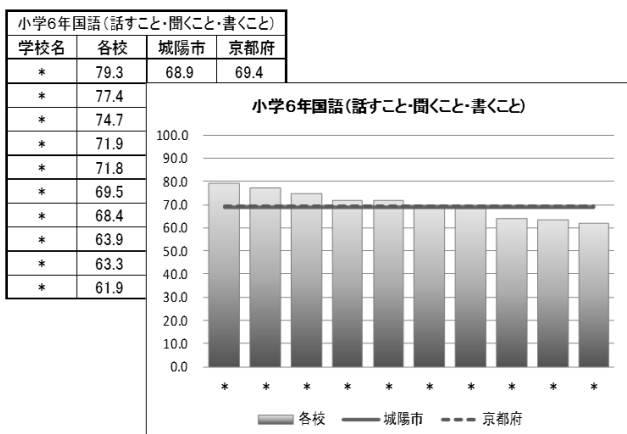
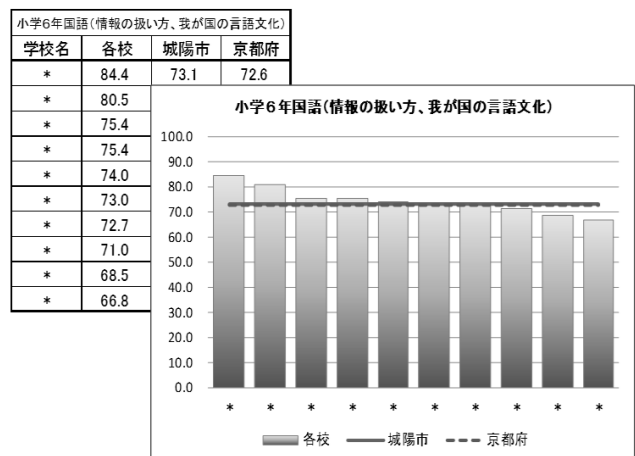
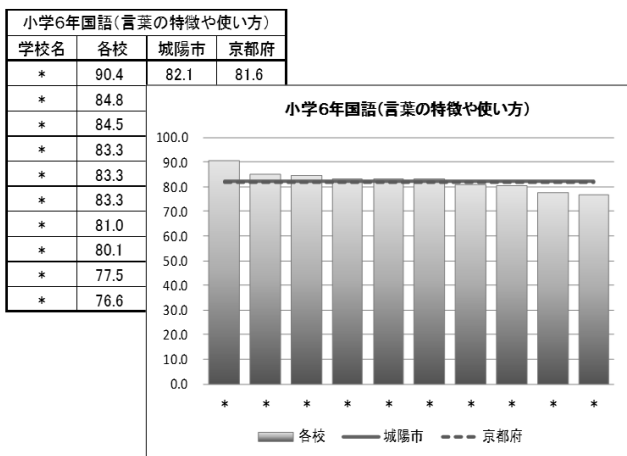
【全体の結果】



【学力が伸びた児童の割合】



【領域別の結果】



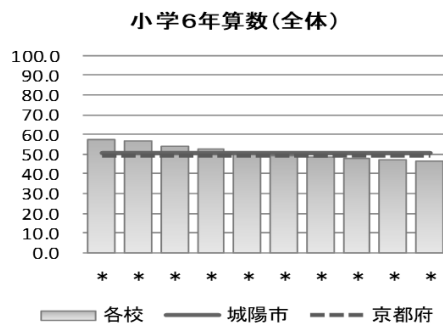
(6) 算数／小学6年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、1.1ポイント上回りました。
- ・「数と計算」の領域では府の平均より1.9ポイント高いので基礎・基本が定着している児童が多いと考えられます。今後は図や表、グラフを活用しながら考えを交流する機会を多く取り入れることで、算数への学習意欲を一層高めることが求められます。中学校への進学を見据えて、本市も府も平均正答率の低かった「変化と関係」と「データの活用」の問題にも対応できる思考力を育成することが大切だと考えます。

<結果の状況>

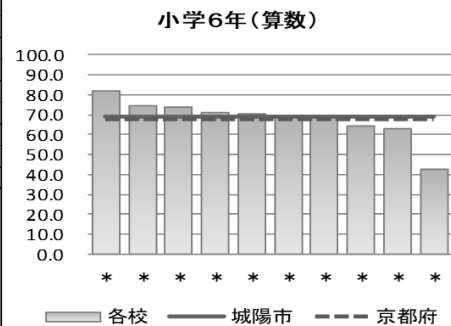
【全体の結果】

小学6年算数(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	57.2	50.5	49.4
*	56.9		
*	54.0		
*	52.4		
*	50.6		
*	49.4		
*	48.2		
*	48.0		
*	46.9		
*	46.6		



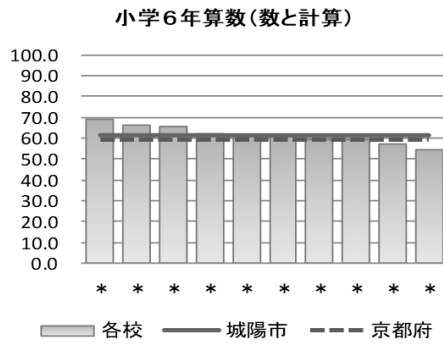
【学力が伸びた生徒の割合】

小学6年(算数)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	82.0	69.3	67.8
*	74.2		
*	74.0		
*	71.0		
*	70.5		
*	69.6		
*	68.9		
*	64.0		
*	62.8		
*	42.9		

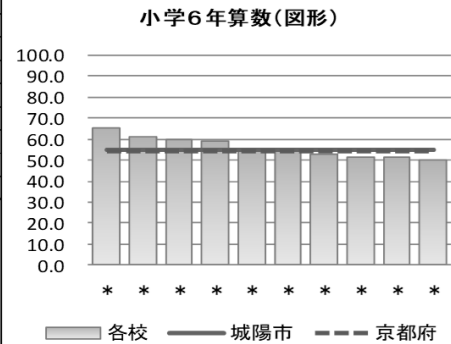


【領域別の結果】

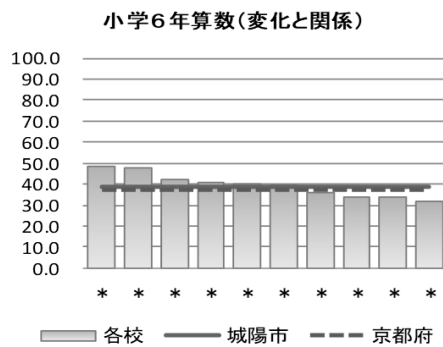
小学6年算数(数と計算)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	68.7	61.0	59.1
*	66.3		
*	65.7		
*	62.0		
*	60.8		
*	60.3		
*	59.1		
*	58.9		
*	57.1		
*	54.4		



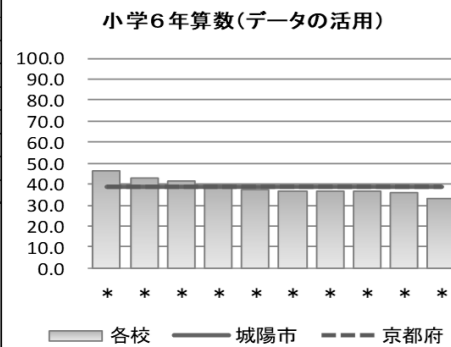
小学6年算数(図形)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	65.0	55.1	54.5
*	61.5		
*	60.0		
*	59.3		
*	55.8		
*	54.6		
*	52.8		
*	51.5		
*	51.4		
*	50.2		



小学6年算数(変化と関係)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	48.1	38.7	37.3
*	47.4		
*	42.2		
*	40.7		
*	40.0		
*	39.1		
*	36.0		
*	33.9		
*	33.7		
*	31.5		



小学6年算数(データの活用)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	46.4	38.7	38.9
*	42.8		
*	41.4		
*	39.4		
*	37.4		
*	36.7		
*	36.7		
*	36.3		
*	36.0		
*	33.3		



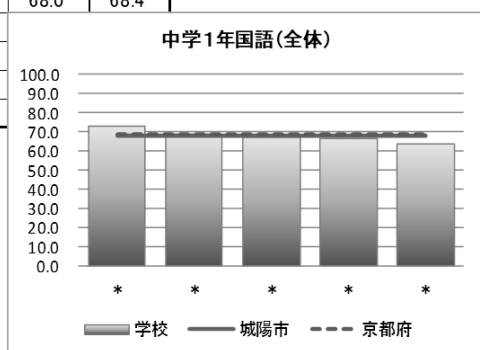
(7) 国語／中学1年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.4ポイント下回りました。
- ・「情報の使い方、我が国の言語文化」の領域で府平均と比較し8ポイント以上差がついた学校においては改善が求められます。読書活動を推進し語彙を広げること、説明文の読み方の基本を再確認すること、調べてまとめる活動を充実させることが必要です。また、小学校の学習内容も定着していないことが考えられます。系統性に沿って既習内容を復習するなど、重点的な補充を行う計画の立案・実施が求められます。

<結果の状況>

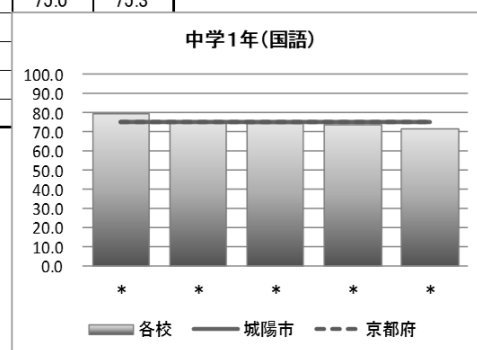
【全体の結果】

中学1年国語(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	73.0	68.0	68.4
*	68.9		
*	67.2		
*	66.3		
*	63.6		



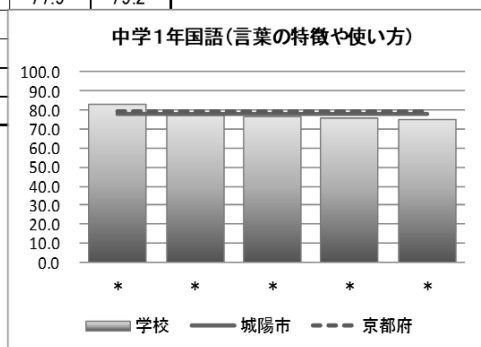
【学力が伸びた生徒の割合】

中学1年(国語)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	79.4	75.0	75.3
*	75.2		
*	74.6		
*	73.5		
*	71.3		

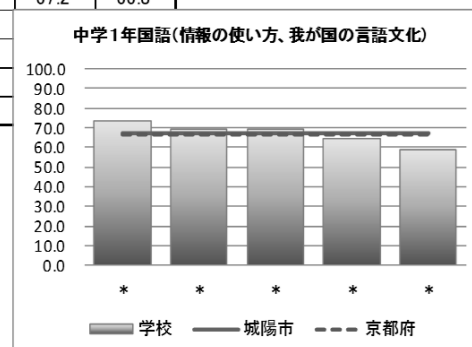


【領域別の結果】

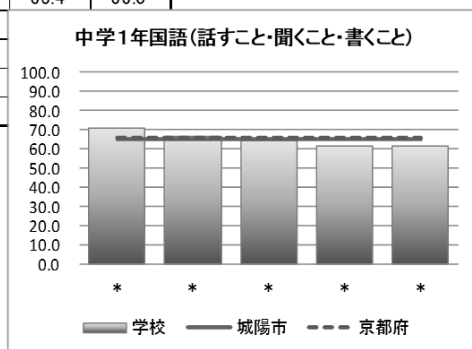
中学1年国語(言葉の特徴や使い方)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	83.1	77.9	79.2
*	77.5		
*	76.4		
*	76.0		
*	75.2		



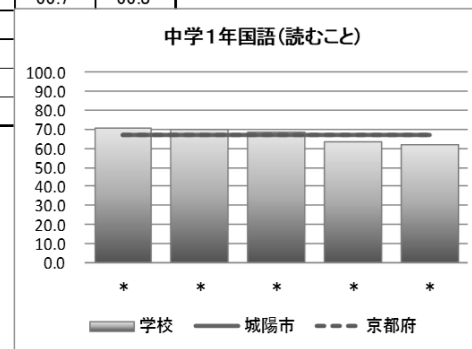
中学1年国語(情報の使い方、我が国の言語文化)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	73.5	67.2	66.8
*	69.5		
*	69.3		
*	64.6		
*	58.7		



中学1年国語(話すこと・聞くこと・書くこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	70.9	65.4	66.0
*	66.6		
*	64.6		
*	61.8		
*	61.6		



中学1年国語(読むこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	70.5	66.7	66.8
*	69.7		
*	68.3		
*	63.5		
*	62.2		



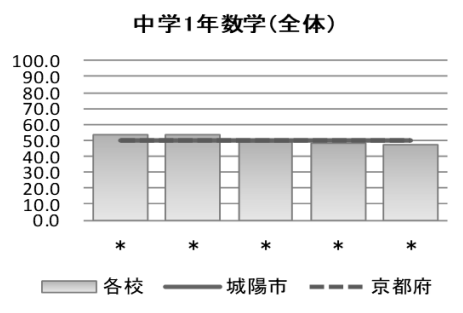
(8) 数学／中学1年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.5ポイント上回りました。特に、「数と計算」では府の平均より2.1ポイント高く、基礎・基本が定着している生徒が多いと考えられます。
- ・「変化と関係」の領域では、大きな差はありませんが全ての中学校で府の平均を下回りました。「変化と関係」については、昨年度6年生時では、市の平均は府の平均を1.0ポイント上回っていたので小学6年生の学習内容に躓きがあります。「比例」と「比」の復習が必要です。

<結果の状況>

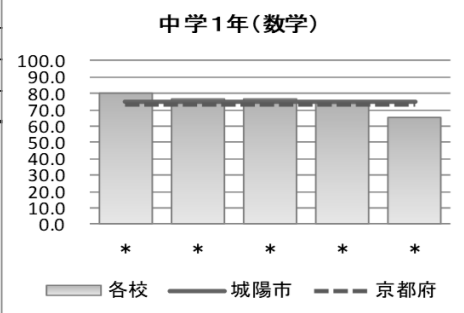
【全体の結果】

中学1年数学(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	53.6	50.2	49.7
*	53.2		
*	49.2		
*	48.0		
*	47.3		



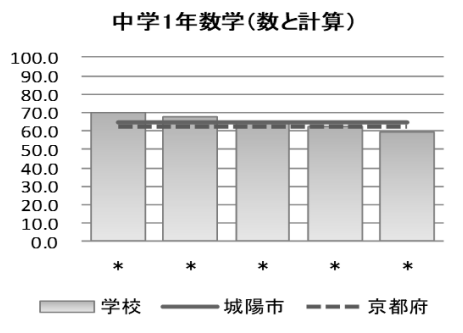
【学力が伸びた生徒の割合】

中学1年(数学)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	80.4	75.0	72.8
*	77.0		
*	76.3		
*	74.4		
*	65.5		

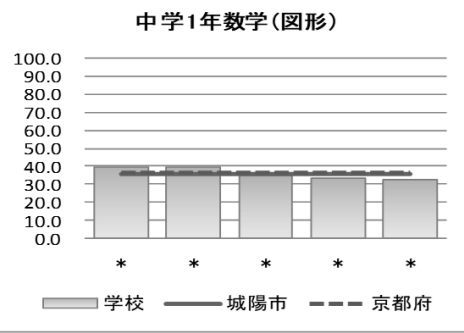


【領域別の結果】

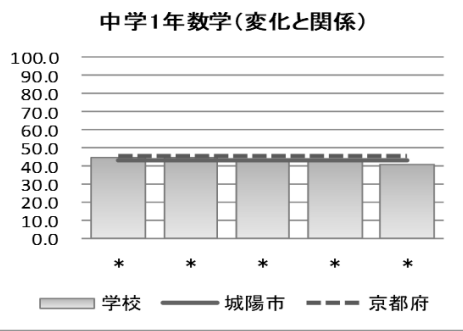
中学1年数学(数と計算)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	70.3	64.6	62.5
*	67.8		
*	64.5		
*	62.7		
*	59.1		



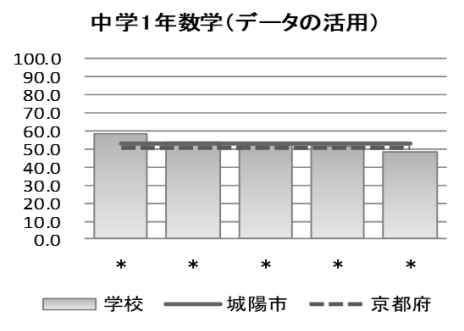
中学1年数学(図形)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	39.9	36.1	36.6
*	39.3		
*	34.7		
*	33.1		
*	32.7		



中学1年数学(変化と関係)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	44.9	43.3	45.4
*	44.8		
*	43.5		
*	43.0		
*	40.8		



中学1年数学(データの活用)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	57.9	52.8	50.8
*	53.4		
*	52.1		
*	51.1		
*	48.5		

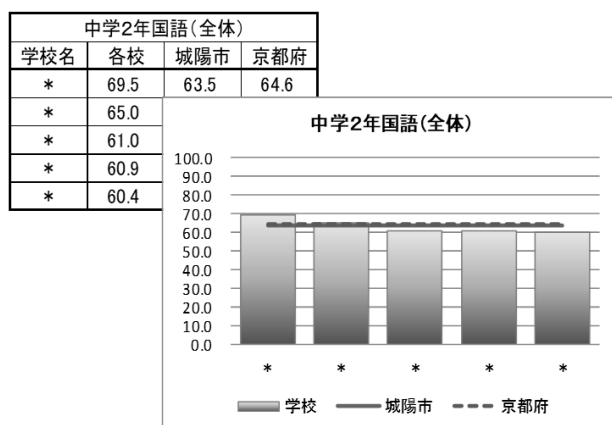


(9) 国語／中学2年

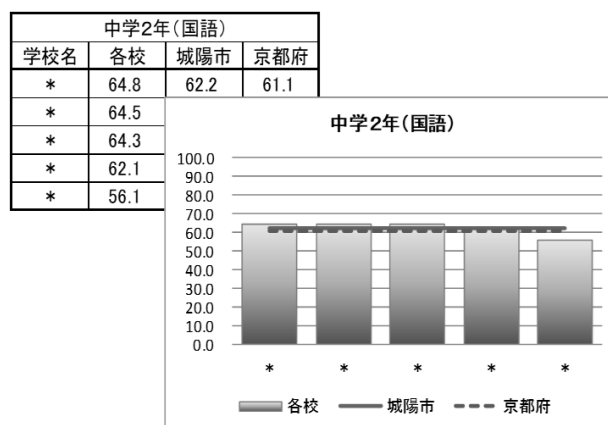
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、1.1ポイント下回りました。昨年度1年生時は府平均比△0.6ポイントでしたので、差が広がる結果となりました。
- ・「情報の扱い方、我が国の言語文化」の領域は昨年度1年生時の府の平均比△1.7ポイントから大きく改善され、今年度は府の平均を3.0ポイント上回りました。
- ・「言葉の特徴や使い方」の領域に課題があります。知識及び技能の柱の領域であるため早期の改善が求められます。語彙を広げ表現技法への理解を深める手立てを講じる必要があります。

<結果の状況>

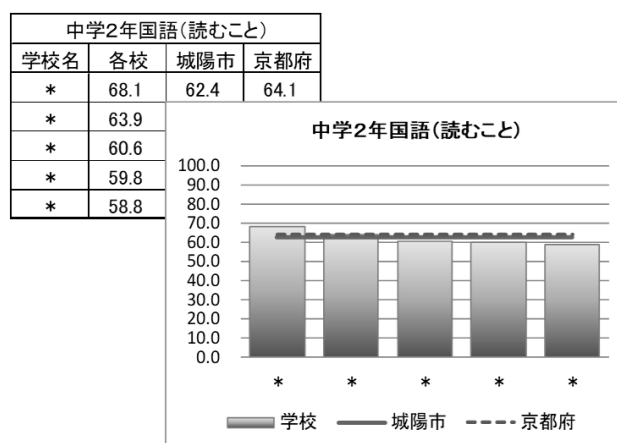
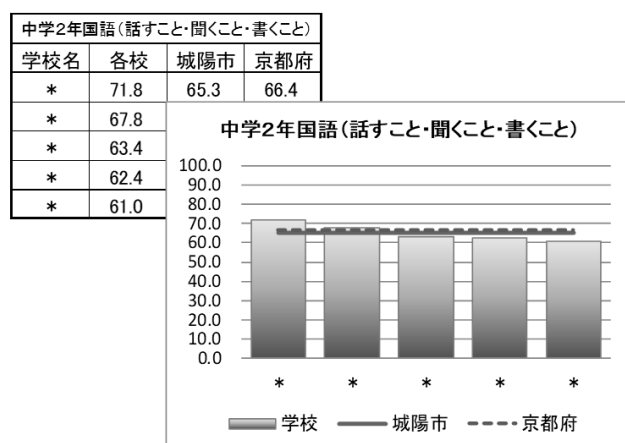
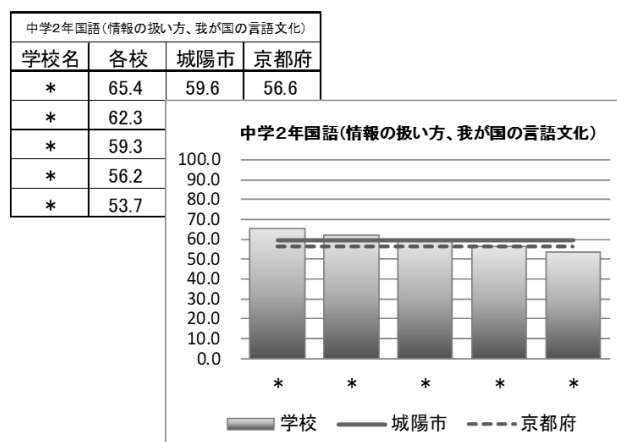
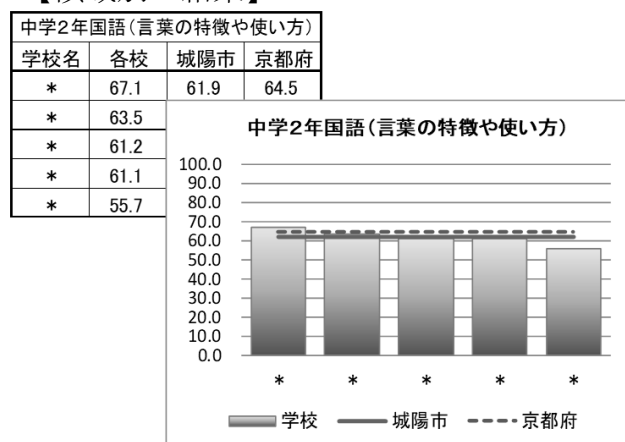
【全体の結果】



【学力が伸びた生徒の割合】



【領域別の結果】



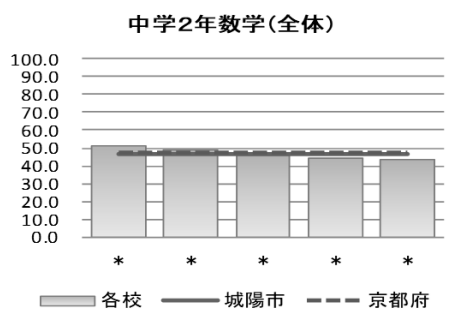
(10) 数学／中学2年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.6ポイント下回りました。
- ・「領域別の結果」では、「数と計算」と「図形」で府平均と比べ5ポイント以上下回った学校があります。「数と計算」の領域は数学の基礎能力ですので、早急に改善に向けた手立てを講じる必要があります。「図形」の領域では今後、難しい証明を学習します。「図形」に課題がある学校には、これまでに学習した各図形の性質や定義を再確認し、面積や体積の計算や作図などの基礎技能を向上させるための習熟の時間を確保することが求められます。

<結果の状況>

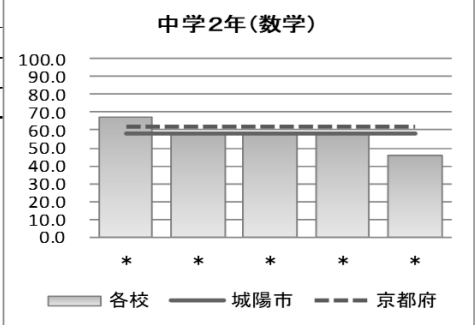
【全体の結果】

中学2年数学(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	50.9	46.7	47.3
*	48.8		
*	45.6		
*	44.3		
*	43.6		



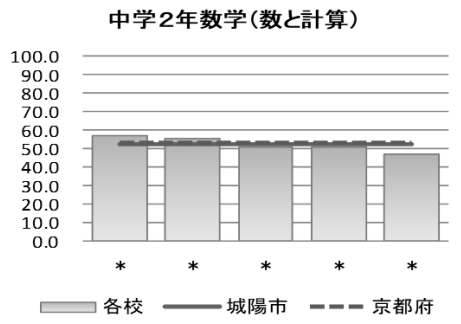
【学力が伸びた生徒の割合】

中学2年(数学)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	67.0	58.1	61.6
*	59.2		
*	58.9		
*	58.3		
*	45.8		

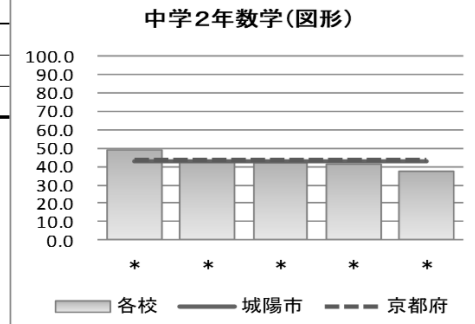


【領域別の結果】

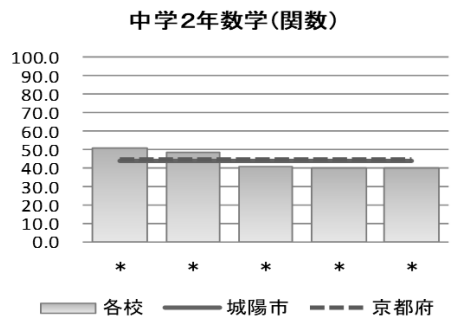
中学2年数学(数と計算)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	56.7	52.2	52.8
*	55.9		
*	51.1		
*	50.6		
*	47.1		



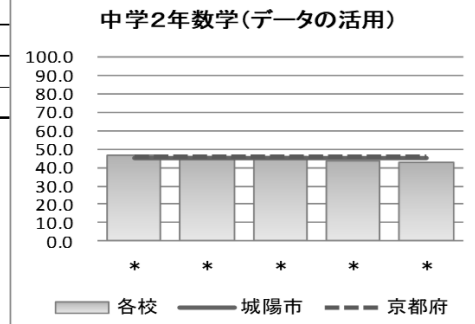
中学2年数学(図形)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	48.9	42.7	43.6
*	43.1		
*	42.0		
*	41.0		
*	37.1		



中学2年数学(関数)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	50.9	43.9	44.4
*	48.8		
*	40.9		
*	40.3		
*	39.9		



中学2年数学(データの活用)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	46.4	45.0	45.6
*	46.1		
*	45.8		
*	43.1		
*	42.5		

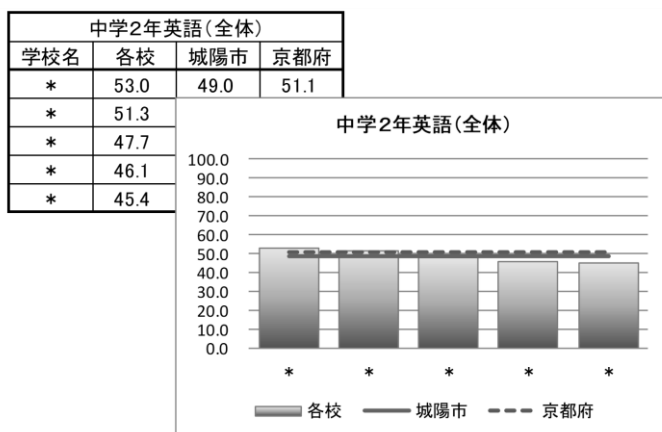


(11) 英語／中学2年

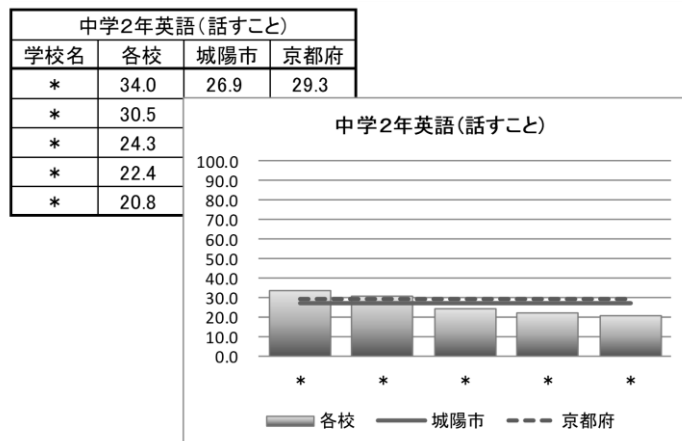
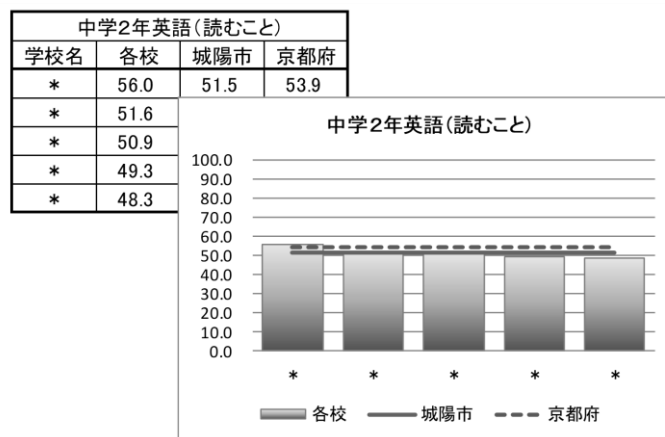
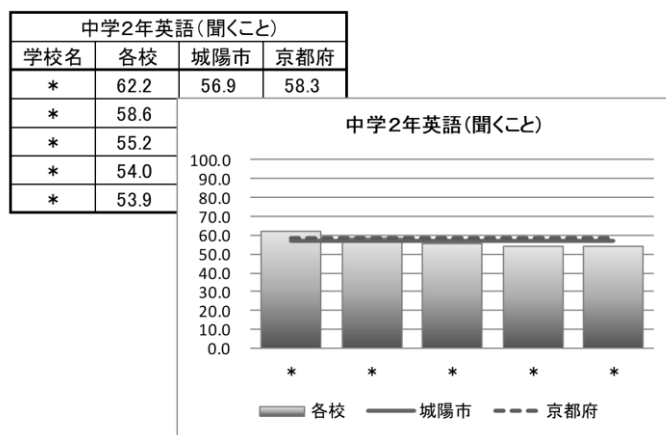
- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、2.1ポイント下回りました。
- ・「領域別の結果」では、「話すこと」に課題がある学校が複数あります。英語でやりとりをする機会の確保が必要です。正しい表現への関心を高めるためには、表現への評価をすぐに、的確に返す必要があるので、表現と評価の良いサイクル作りが求められます。I C T機器の活用によって英語を話す機会を増やす工夫も考えられます。英語で話す楽しさを生徒が多く味わうことができる授業の展開が求められます。

<結果の状況>

【全体の結果】



【領域別の結果】



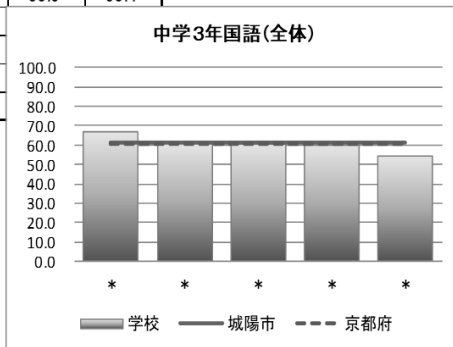
(12) 国語／中学3年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、0.5ポイント上回りました。
- ・「領域別の結果」では、「言葉の特徴や使い方」以外の全ての領域で京都府の平均を上回りました。しかし、それぞれの領域で府平均と差が開いている学校があります。高校入試に向け、それぞれの課題改善に向けた授業づくりを計画・実行すること、また、生徒一人一人の学力状況に合わせた支援を充実させることが求められます。

<結果の状況>

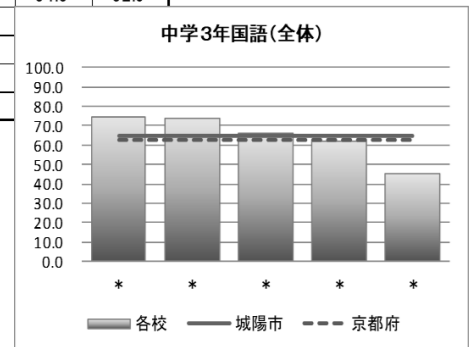
【全体の結果】

中学3年国語(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	67.0	60.9	60.4
*	61.3		
*	60.3		
*	59.7		
*	54.2		



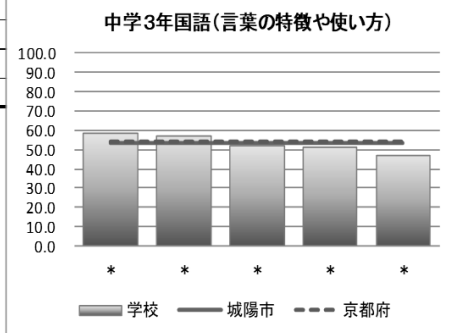
【学力が伸びた生徒の割合】

中学3年(国語)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	74.7	64.6	62.9
*	73.6		
*	66.3		
*	62.1		
*	45.3		

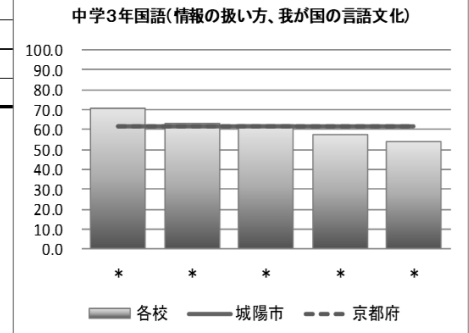


【領域別の結果】

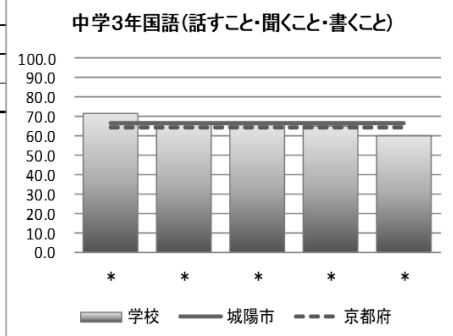
中学3年国語(言葉の特徴や使い方)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	58.6	53.3	54.1
*	57.1		
*	51.8		
*	51.1		
*	46.8		



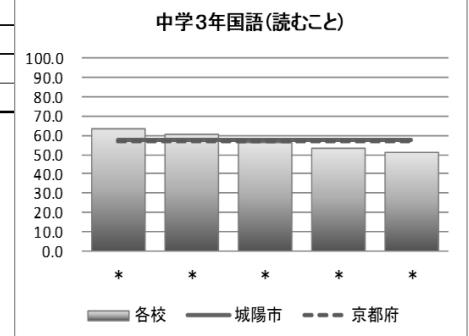
中学3年国語(情報の扱い方、我が国の言語文化)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	71.0	61.9	61.8
*	63.2		
*	62.3		
*	57.7		
*	54.1		



中学3年国語(話すこと・聞くこと・書くこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	71.4	66.2	64.7
*	66.4		
*	66.1		
*	64.8		
*	59.9		



中学3年国語(読むこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	63.2	57.7	57.0
*	60.6		
*	56.1		
*	53.3		
*	51.2		



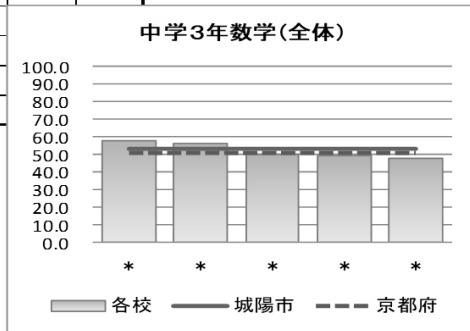
(13) 数学／中学3年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、2.3ポイント上回りました。昨年度2年生時は府平均を1.5ポイント上回る結果だったことから、市全体として数学の学力はさらに向上しています。
- ・「領域別の結果」では全ての領域で府の平均を上回りました。特に、数学の基礎技能の領域である「数と計算」では全ての学校が府の平均を上回っています。一方で、「図形」「関数」の領域に課題がある学校があります。習熟を図るため、基礎問題から発展問題までを反復することが求められます。

<結果の状況>

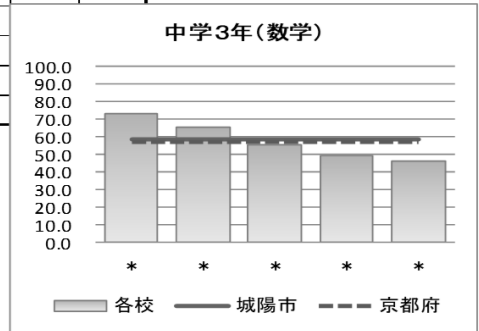
【全体の結果】

中学3年数学(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	58.3	53.3	51.0
*	56.1		
*	50.7		
*	49.3		
*	48.1		



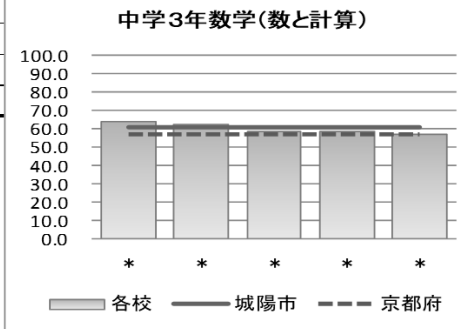
【学力が伸びた生徒の割合】

中学3年(数学)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	73.7	59.0	57.5
*	65.8		
*	55.8		
*	49.2		
*	46.3		

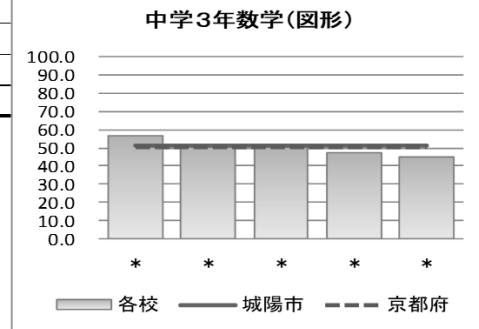


【領域別の結果】

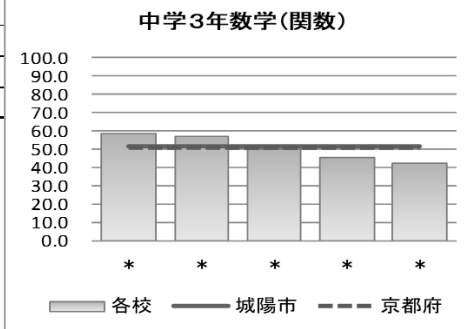
中学3年数学(数と計算)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	64.1	60.7	57.1
*	62.5		
*	58.7		
*	58.6		
*	57.2		



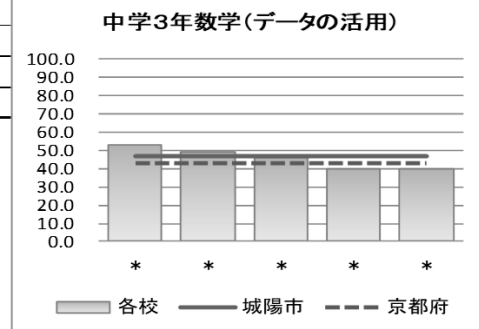
中学3年数学(図形)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	56.9	50.9	50.5
*	51.9		
*	50.2		
*	47.0		
*	44.7		



中学3年数学(関数)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	58.5	51.9	50.9
*	56.8		
*	50.2		
*	45.8		
*	42.1		



中学3年数学(データの活用)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	53.0	46.4	43.0
*	49.4		
*	45.6		
*	39.9		
*	39.5		



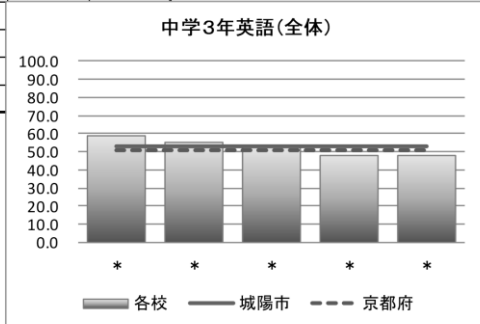
(14) 英語／中学3年

- ・「全体」では、京都府の平均と比較して、2.3ポイント上回りました。
- ・「領域別の結果」では、全ての領域で京都府の平均を上回っています。今後は、高校入試に向け本市も府も平均正答率の低かった「話すこと」の問題にも対応できる技能を育成することが大切であると考えます。筆記問題の習熟を図りながら、英語でやりとりをする機会の充実も図る網羅的な授業展開の推進が求められます。

<結果の状況>

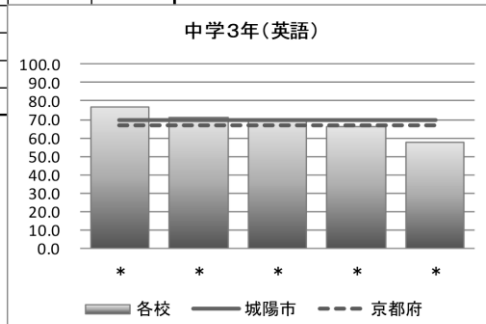
【全体の結果】

中学3年英語(全体)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	58.8	53.3	51.0
*	55.3		
*	53.1		
*	47.8		
*	47.8		



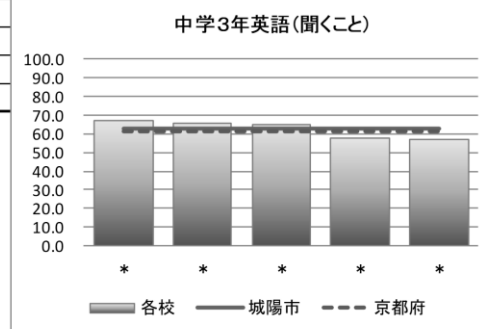
【学力が伸びた生徒の割合】

中学3年(英語)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	76.7	69.4	66.8
*	71.4		
*	70.6		
*	65.8		
*	57.5		

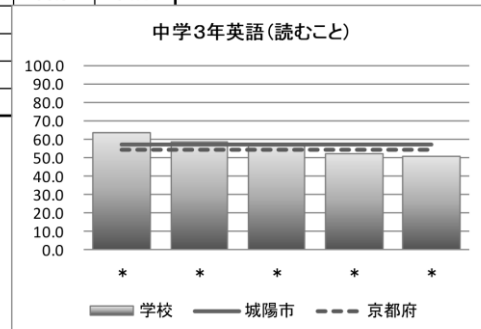


【領域別の結果】

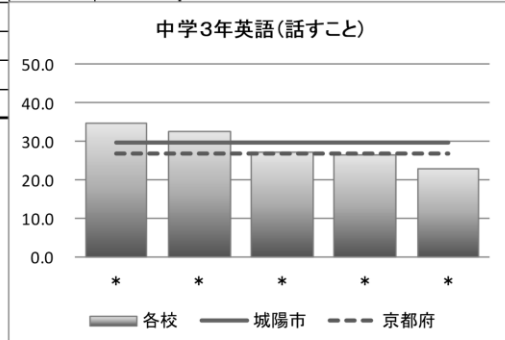
中学3年英語(聞くこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	66.9	63.1	61.5
*	65.5		
*	65.1		
*	58.0		
*	57.2		



中学3年英語(読むこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	63.4	56.8	54.4
*	58.3		
*	56.4		
*	52.0		
*	50.4		

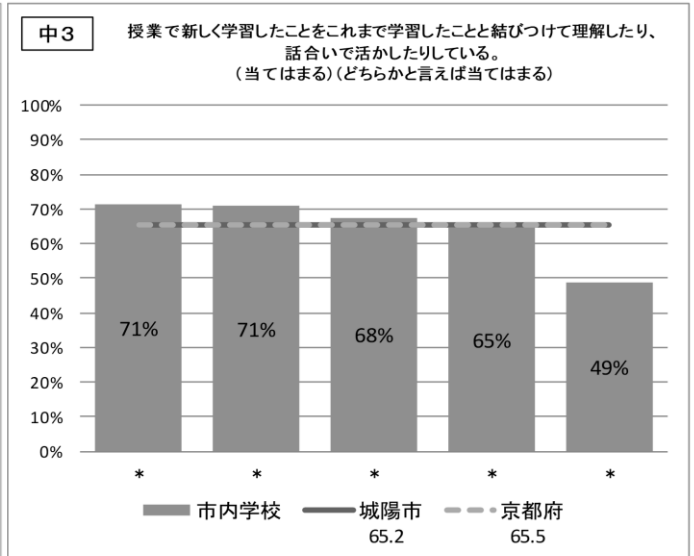
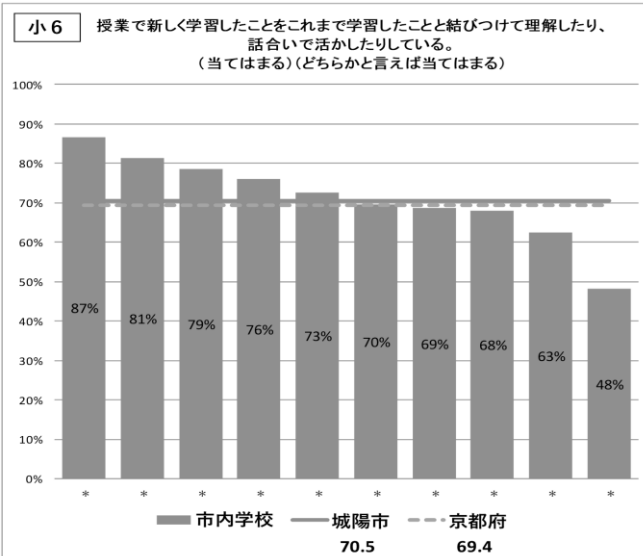
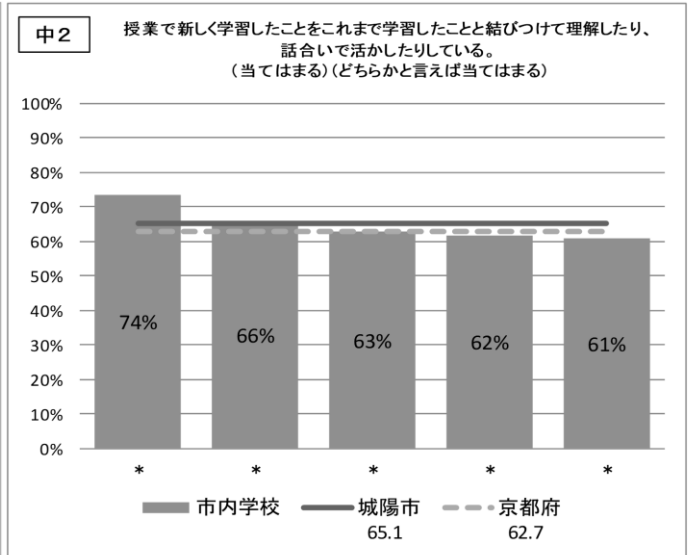
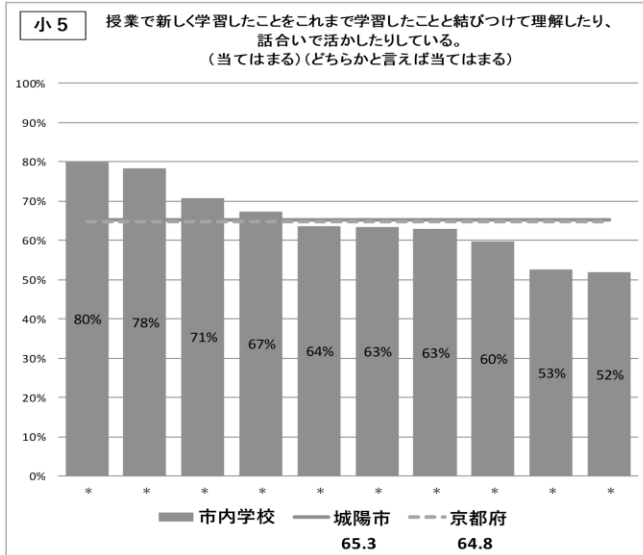
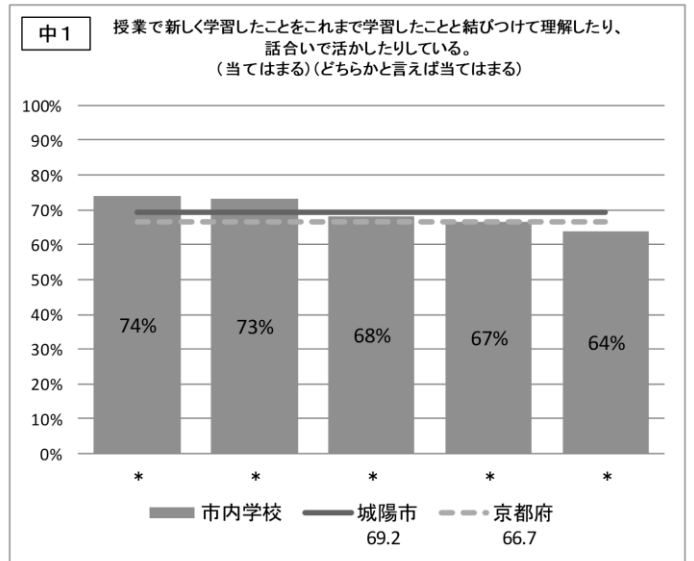
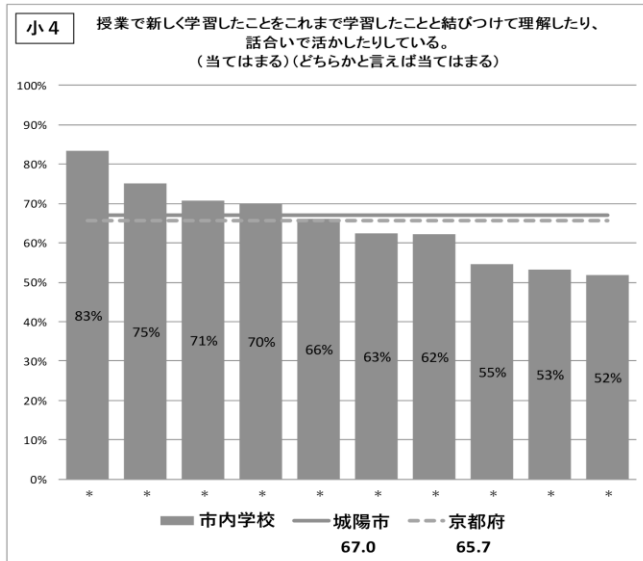


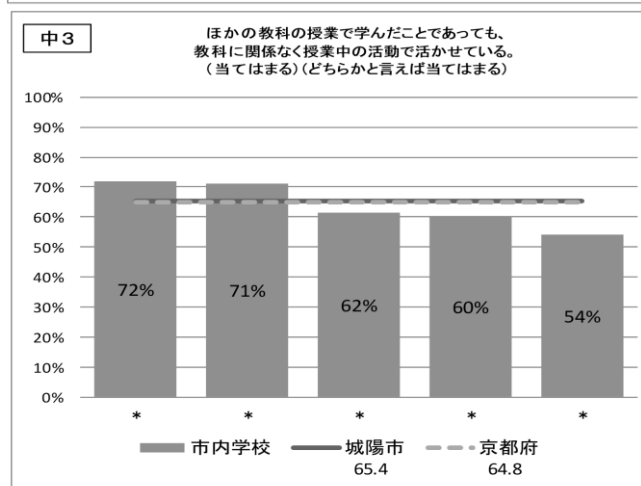
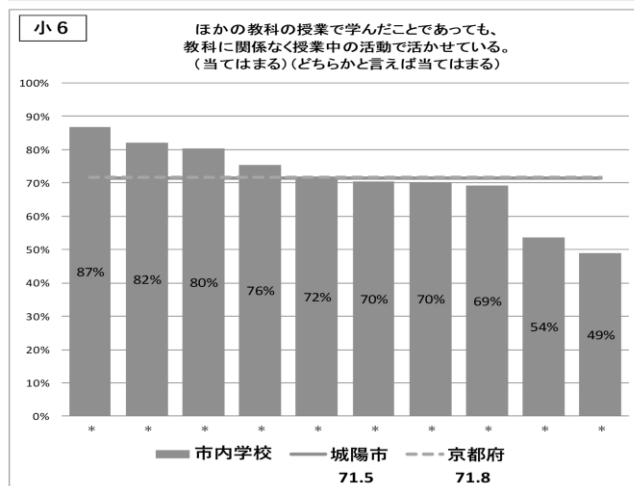
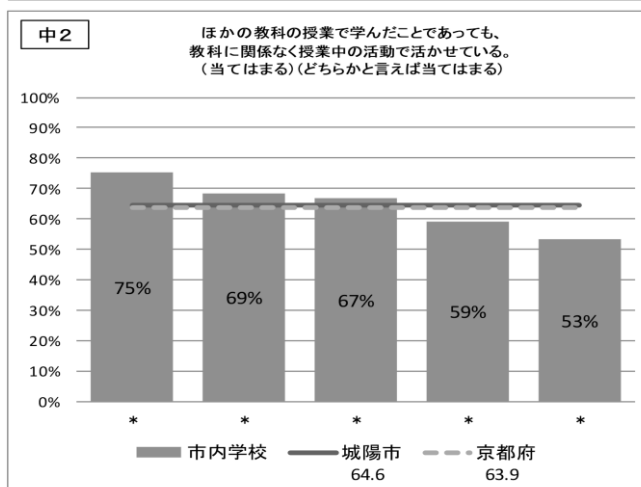
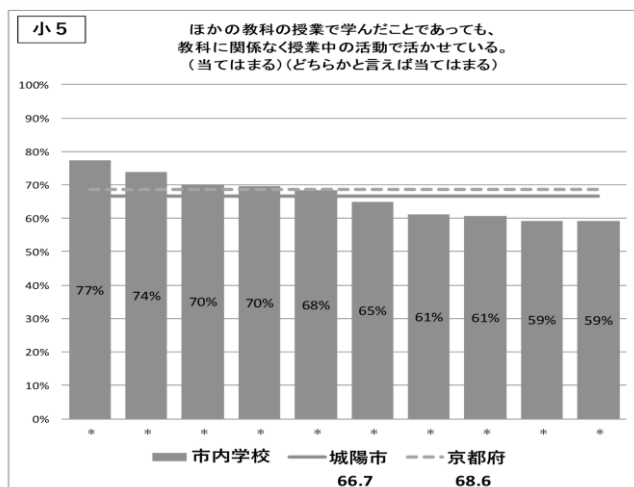
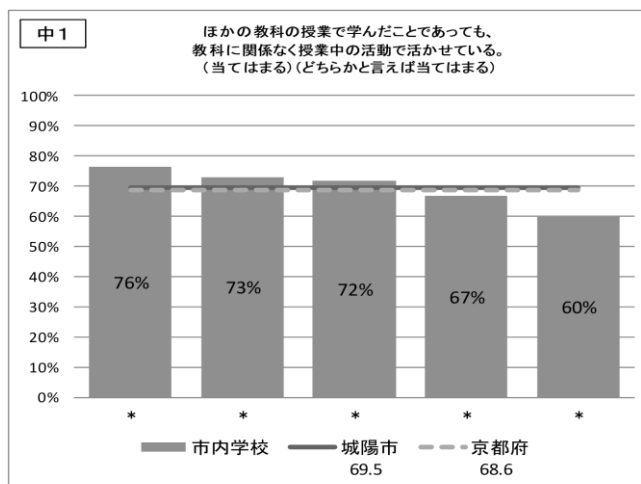
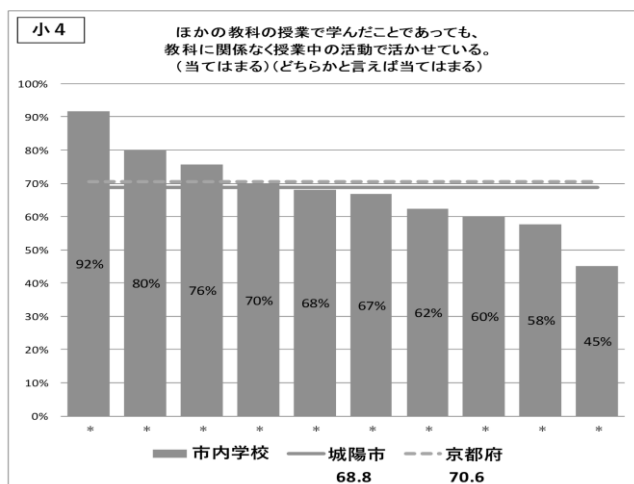
中学3年英語(話すこと)			
学校名	各校	城陽市	京都府
*	34.6	29.6	26.8
*	32.7		
*	27.4		
*	26.4		
*	22.8		



6 質問調査の結果

(1) 授業について

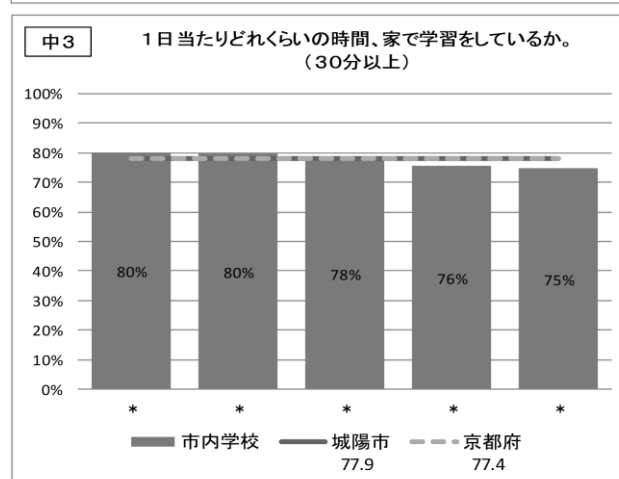
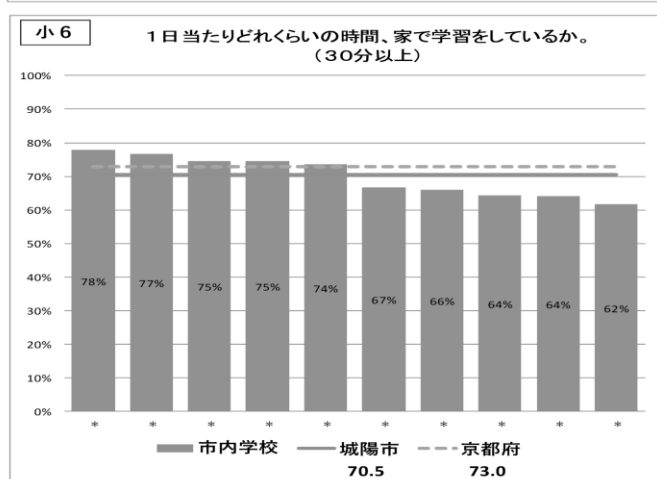
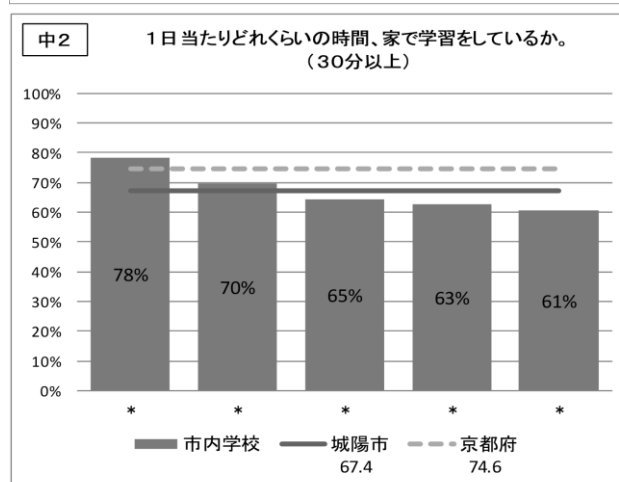
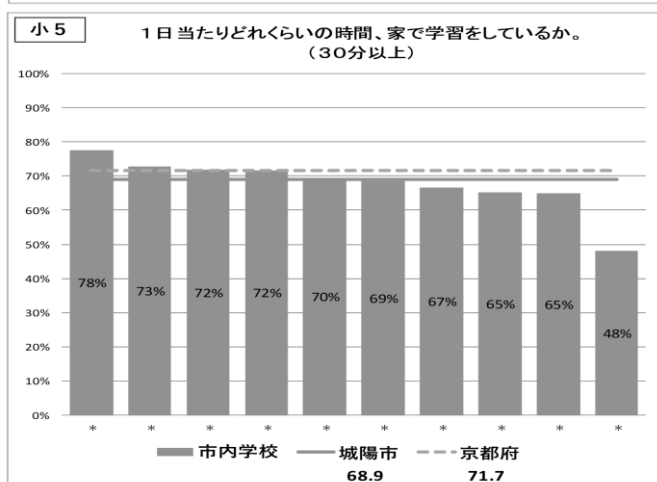
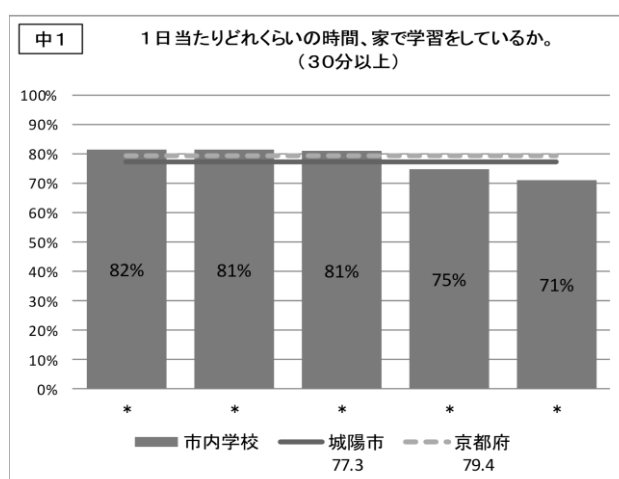
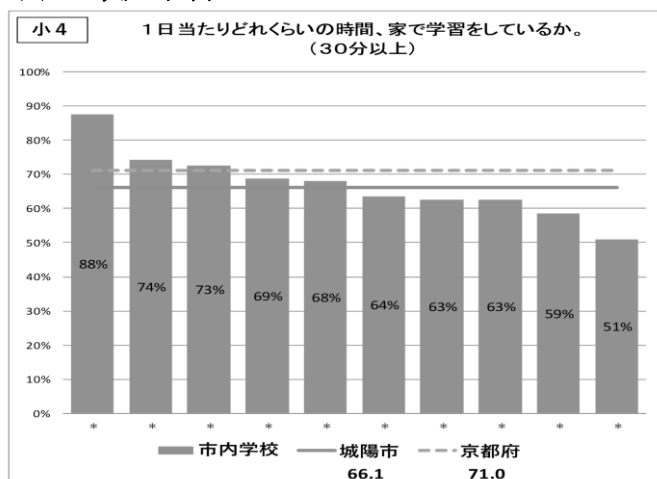




・小学校は、新しく学習したことと、これまでに学習したことを結びつける系統的な学習に関する設問に肯定的に答えた児童の割合は、全ての学年で府の平均を上回りました。一方で、他の教科と結びつけて考える設問に関しては全ての学年で府の平均を下回りました。教科の中で深く学ぶことはできていますが、それぞれの教科で学んだことを統合する力の育成については十分とはいえません。教科横断的な学習活動の展開と推進が求められます。

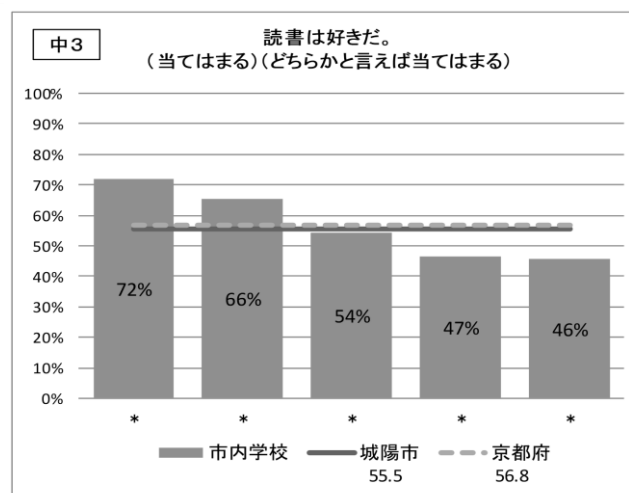
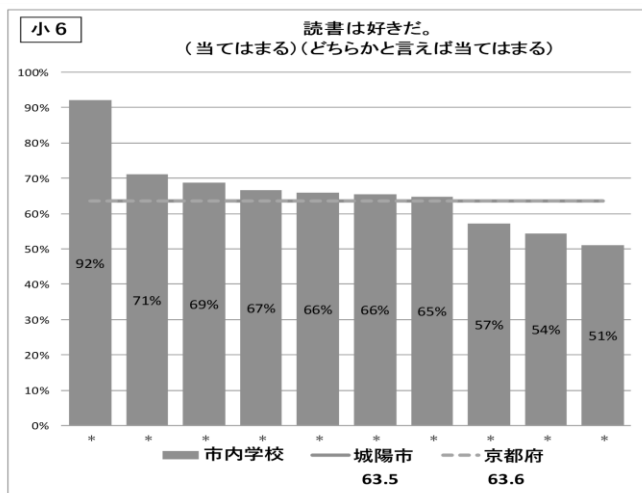
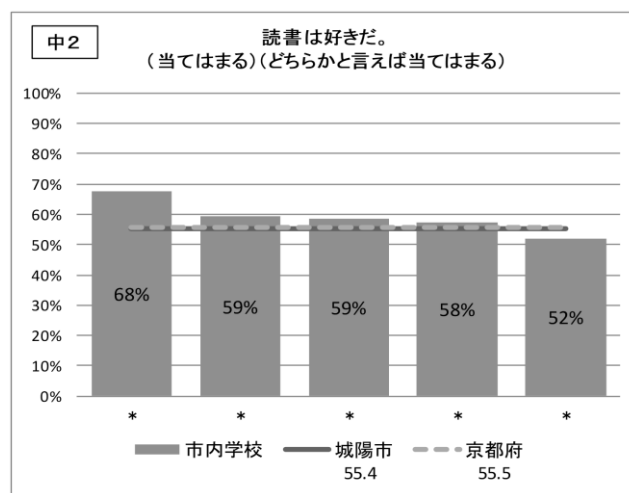
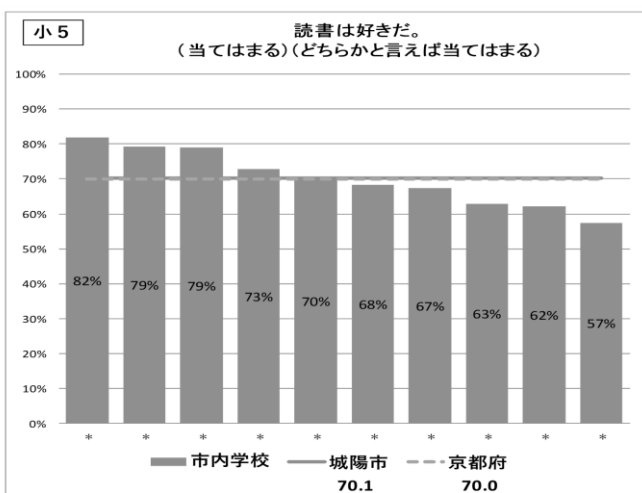
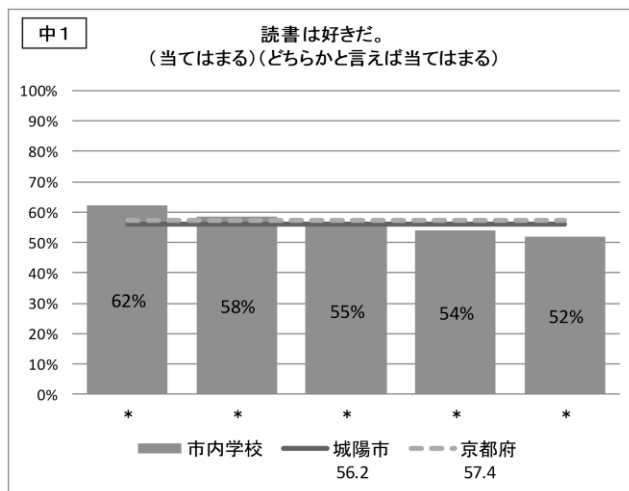
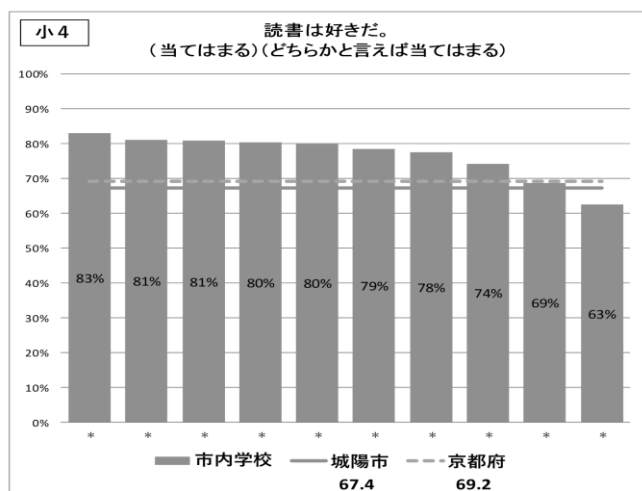
中学校は上記の2つの設問に対してほぼ全ての学年で府の平均を上回りました。他者と互いに学び合う協働的な学びを推進した成果が、活用力の向上として現れていると考えられます。

(2) 家庭学習について



- ・家庭学習の時間が「30 分以上」と回答した児童生徒の割合は、中学校 3 年生のみ京都府の平均より高く、他の学年については府の平均より低い割合となりました。中学 2 年生では 30 分以上家庭で学習している生徒の割合が、昨年度 1 年生時（83.5%）と比べ 16.1%低くなりました。
- ・予測困難な時代を主体的に生きるためには、「変化を前提に学び続ける力」が求められます。児童生徒に学び続ける力を育成するためには、学びに向かう意欲と学びを調整する力をはぐくむことが必要です。義務教育の 9 年間に小・中学校と家庭が目標を共有し、継続して「学び続ける力」の育成に取り組むことが大切です。

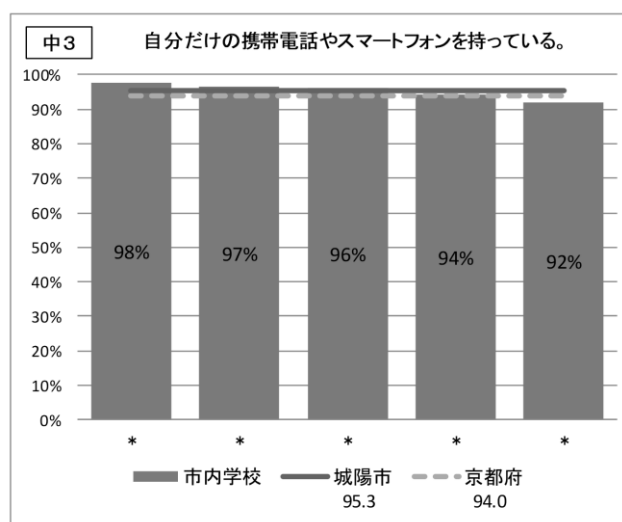
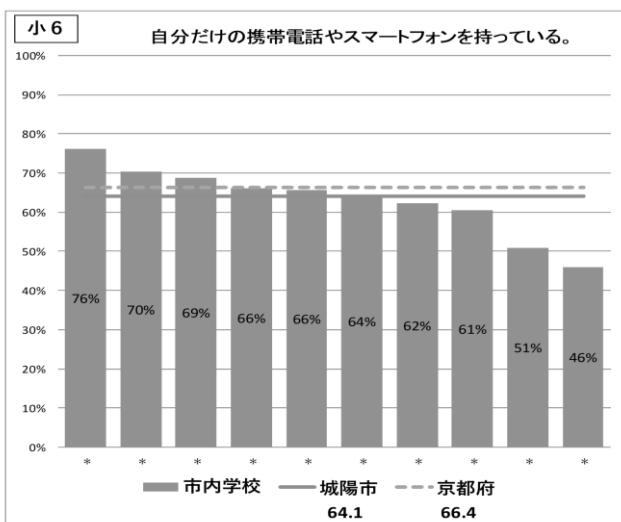
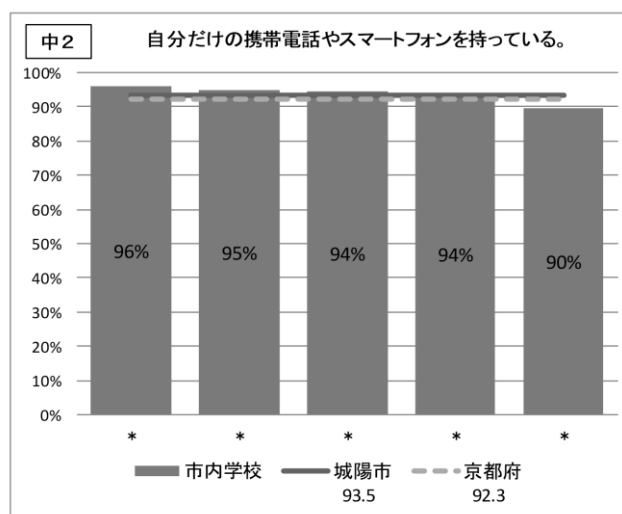
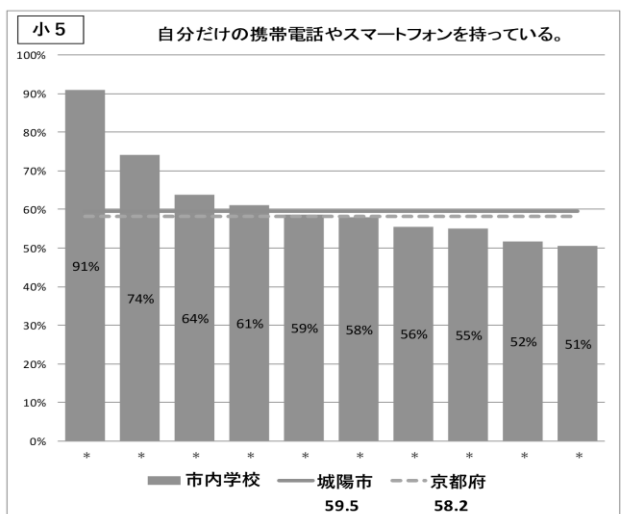
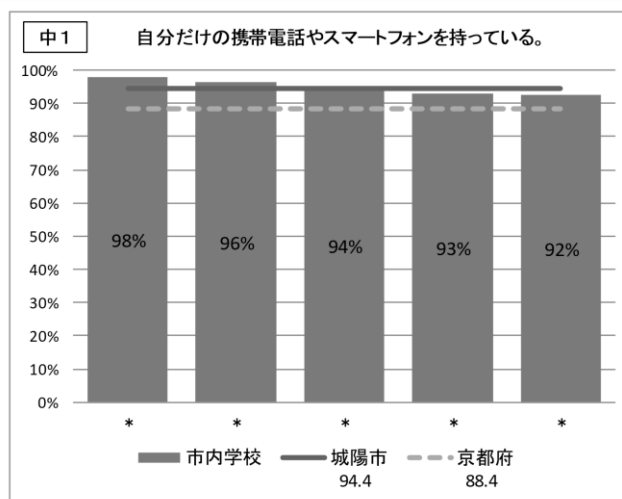
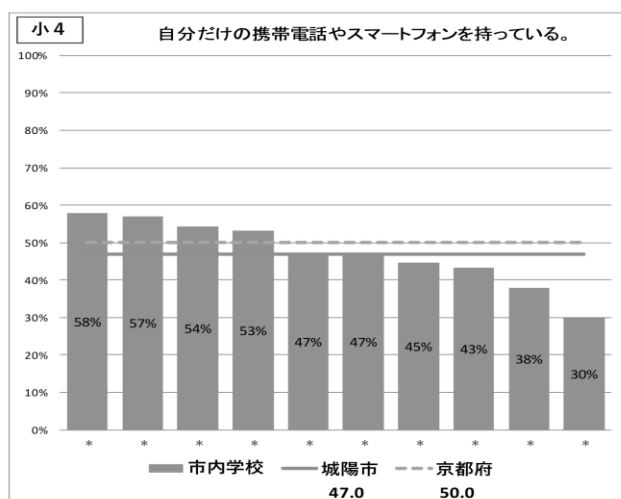
(3) 読書について

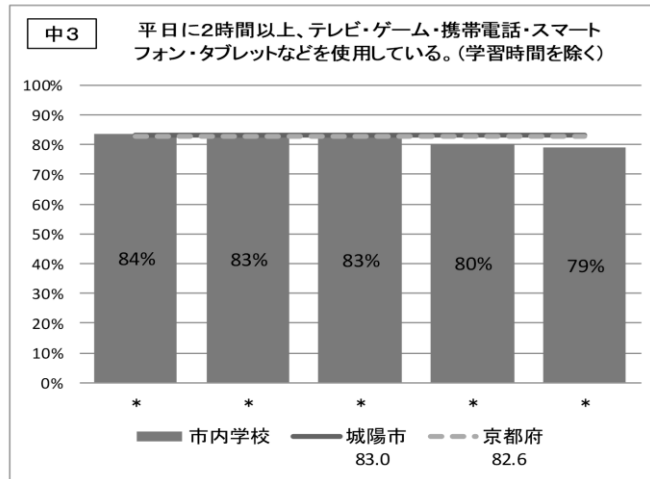
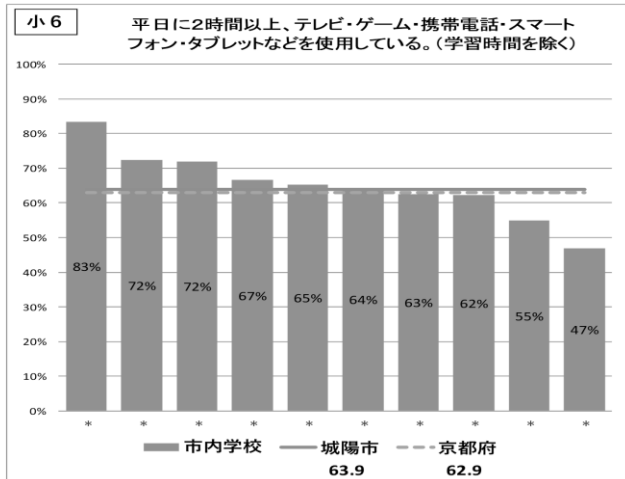
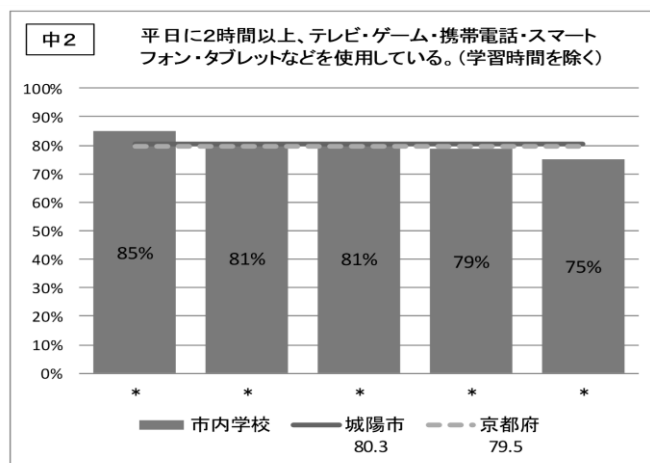
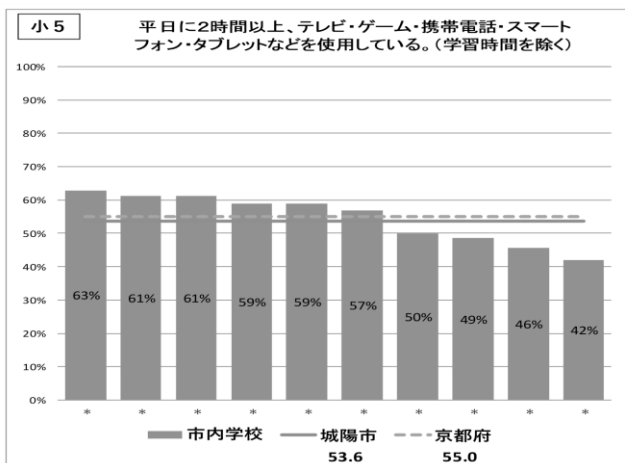
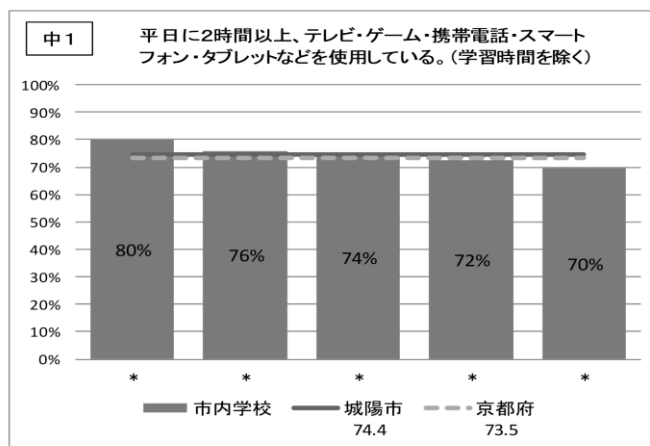
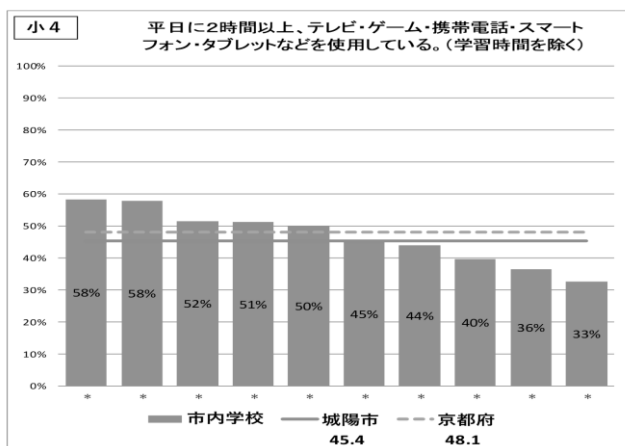


・「読書は好きだ。」の設問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、半数の学年が京都府の平均と同等、半数の学年が京都府の平均を下回りました。昨年度と比べると、本市と京都府ともに肯定的に回答した児童生徒の割合が全ての学年で下がりました。

適切な読書時間は、読解力・語彙力・論理的思考力・集中力を高めます。現行の読書活動推進に関する取組を見直し、児童生徒の読書量を増やす継続的な取組が求められます。

(4) 携帯電話・スマートフォン等について





- ・児童生徒の携帯電話・スマートフォンの所持率は、本市は昨年度とほぼ横ばいですが、京都府は全学年で微増しました。
- ・本市は中学生になると携帯電話・スマートフォンを所持する割合が急増し、全ての学校で90%を超えます。
- ・平日に2時間以上テレビやゲーム、スマートフォンを使用している児童生徒の割合は学年が上がるにつれて高くなる傾向があります。インターネットの適切な利用について理解を促す指導が必要です。
- ・生活習慣を安定させる指導を継続して行う必要があります。